

卒業生等による大学教育評価報告書

-教育内容の改善・向上を目指して-

(令和3年度実施)

令和5年2月

香川大学

目 次

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<修了生によるアンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<企業等アンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

<調査資料>

- 1. 令和3年度実施香川大学卒業生等及び企業等アンケート用紙・ 3

第2章 調査結果について

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

- 2. 学部に関する分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
 - 教育学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
 - 法学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
 - 経済学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
 - 医学部医学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
 - 看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
 - 創造工学部（工学部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
 - 農学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

<修了生によるアンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析 73

- 2. 研究科に関する分析 76
 - 法学研究科 76
 - 経済学研究科 77
 - 医学系研究科 80
 - 工学研究科 85
 - 農学研究科 88

<企業等アンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析 90

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

<卒業生によるアンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和3年11月4日（木）～令和3年11月30日（金）
3. 調査対象 本学卒業後3年目（H30）及び4年目（H29）の卒業生2,521人
回答数は502人、回答率19.9%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、令和元年度に実施している「卒業生及び卒業生の就職先企業等に対するアンケート調査」の質問項目から一部追加修正がなされたものである。
アンケート調査は、教育企画課（旧名称：学務グループ）が中心となり、卒業生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式はMicrosoft Formsで作成し、そのURL及びQRコードを知らせてWebで回答してもらうこととした。

<修了生によるアンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和4年1月17日（月）～令和4年2月15日（火）
3. 調査対象 本学修了後3年目（H30）及び4年目（H29）の修了生398人
回答数は68人、回答率17.1%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、全学的に共通する質問項目と研究科独自項目を組み合わせて作成した。
アンケート調査は、教育企画課（旧名称：学務グループ）が中心となり、修了生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式はMicrosoft Formsで作成し、そのURL及びQRコードを知らせてWebで回答してもらうこととした。

<企業等アンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することで、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和3年10月20日（水）～令和3年11月30日（火）
3. 調査対象 平成29年度～30年度に卒業・修了した学生の就職先（卒業時に学生から申し出があった就職先）659機関
回答数は305機関、回答率は46.9%

4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、「卒業生及び卒業生の就職先企業等に対するアンケート調査」の質問項目と同様のものである。
- また、アンケート調査は学生の就職先の住所宛にアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（学校教育教員養成課程）】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
学校教育基礎研究(課程共通) 教職の意義や児童生徒の発達理解等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育実践研究 教科研究, 学生生活研究や教育実習等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育発展研究 専門領域選択科目や卒業研究等	4	3	2	1	4	3	2	1

問10. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

学校教育基礎研究(課程共通)

1. 教職概論
2. 教育原論
3. 学校教育心理学・児童心理学等
4. 教育社会学・教育統計学
5. 学校教育課程論・教育の方法と技術

学校教育実践研究

1. 教科研究(学校基礎・教科教育コースは初等教科科目と初等教科教育法、幼児教育コースは幼・初等教科科目と保育内容の指導法、特別支援教育コースは特別支援教育に関する科目)
2. 学校生活研究(道徳教育論・特別活動論・生徒指導論・学校教育相談学)
3. 教育実地研究(教育実習・教育実践演習・教職実践演習等)

学校教育発展研究

1. 各専門領域選択科目
2. 卒業研究

問11. 学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問12. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 14. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. あまり満足していない 1. 満足していない

理由： []

問 15. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（人間発達環境課程）】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
基礎研究 発達と環境(課程共通)や基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
実践研究 各コースの実践研究Ⅰ・Ⅱ(インターシップ)	4	3	2	1	4	3	2	1
発展研究 各コースの選択科目・特別演習・卒業研究	4	3	2	1	4	3	2	1

問10. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

基礎研究

1. 発達と環境(課程共通:生涯発達心理学、コミュニケーション論、人間環境学Ⅰ・Ⅱ、国際社会論、多文化共生論)
2. 基礎科目(発達臨床の基礎、人間環境教育の基礎、国際理解教育の基礎)

実践研究

1. 各コースの実践研究Ⅰ・Ⅱ(インターシップ)

発展研究

1. 各コースの選択科目
2. 特別演習(ゼミ)
3. 卒業研究

問11. 学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問12. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 14. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. あまり満足していない 1. 満足していない

理由： []

問 15. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【法学部】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 法学部に在学中、以下の事柄について、どの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
法学部教員の授業への取組み（熱意など）	4	3	2	1
法学部教員の教授方法	4	3	2	1
授業の内容	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業（演習など）	4	3	2	1
法学部のカリキュラム全体について	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会	4	3	2	1
法学部講義室の学習環境	4	3	2	1
法学部資料室の施設（蔵書、情報機器等）	4	3	2	1

問10. 以下に示すような法学部の各開講科目群は、これまでの職業生活に役立っていますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
基礎ゼミ（1年次後期科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
プロゼミ（2年次科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
演習（3年～4年次必修科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎法系科目（法制史、法哲学、法社会学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
公法系科目（憲法、行政法、税法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
民法系科目（民法、商法、民事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
社会法系科目（労働法、社会保障法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
経済法系科目（経済法、経済政策と法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
政治系科目（政治過程論、公共選択論、行政学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
国際系科目（国際法、国際私法、国際関係論等）	4	3	2	1	4	3	2	1
実務家による科目（損害保険の実務と法等）	4	3	2	1	4	3	2	1

問11. 以下に示すさまざまな能力は、法学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。

	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガル・マインド）	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1

問12. 問11に列挙した能力は、仕事を進める上でどの程度必要とされますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	仕事進める上で				社会生活全般で			
	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガルマインド）	4	3	2	1	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1	4	3	2	1

問13. 受講して有益だったと考える法学部開講科目を最大3つまで挙げてください。

() () ()

問14. 在学中にもっと学んでおくべきであったと考える授業科目ないし学問分野を最大3つまで挙げてください（法学部の開講科目や法学・政治学等の学問分野に限定する必要は必ずしもありません）。

() () ()

問15. 総合的にみて、法学部で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. やや不満だった 1. 不満だった

問16. 法学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【経済学部】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学部の専門教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探究・解決力	4	3	2	1	2	1

問10. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度、役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
演習・個別演習	4	3	2	1
卒業論文の執筆	4	3	2	1
学生チャレンジ・プロジェクト (参加者のみ回答)	4	3	2	1
専門履修プログラム (参加者のみ回答)	4	3	2	1
実践型/地域インターンシップ (参加者のみ回答)	4	3	2	1
海外研修・留学 (参加者のみ回答)	4	3	2	1

問11. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（医学科）】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
(理由:)
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
(理由:)
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まな かった
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問9. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：() 都・道・府・県 現在：() 都・道・府・県

問10. 現在のあなたの職種・就業状況は次のどれですか。（複数該当する場合は、主要なもの一つに○をつけて下さい。）

1. 臨床医（勤務医） 2. 臨床医（開業医） 3. 研修医（前期・後期） 4. 教育・研究職（大学等の助教以上）
5. 非常勤医 6. 大学院生 7. 無職 8. その他（ ）

問11. と問12. は、問10. で、1～6と回答した方にお聞きます。

問11. 現在所属している講座または診療科は次のどれですか。

研修医の方は、将来志望する科をお答え下さい。

1. 基礎医学系 2. 内科系 3. 外科系 4. 社会医学系 5. その他（ ）

問12. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む教育機関(大学附属病院を含む) 2. 病院 3. 診療所 4. 福祉施設 5. その他（ ）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問13. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

医学部の教育について	4. 満足だった				3. ある程度満足だった				2. やや不満だった				1. 不満だった							
	シラバスの充実度(教育内容や評価法などが適切に記載されていたか)				教育法(講義・実習の内容が適切に行われたか)				学習法(授業ガイダンスなど科目ごとに学習法についての説明が当該科目の教員からあったか)				カリキュラム(講義や実習の進度、スケジュールやボリュームが適切であったか)				評価法(出席・レポート・試験等)が適切で、シラバスに記載された通りに行われたか)			
教養科目(全学共通科目)	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
外国語科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
社会医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
臨床医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
医学部での学習・生活支援																				
	満足だった				ある程度満足だった				やや不満だった				不満だった							
授業以外で教員と接する機会	4				3				2				1							
指導教員制度	4				3				2				1							
図書館の施設や蔵書	4				3				2				1							
情報処理関係施設や機器	4				3				2				1							
学生の交流スペース	4				3				2				1							
クラブ・サークル関係施設・設備等	4				3				2				1							
自習室	4				3				2				1							

問14. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。それぞれお答えください。

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
医学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の視点から、問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問15.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問16. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問17.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（看護学科）】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問9. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：() 都・道・府・県 現在：() 都・道・府・県

問10. 現在のあなたの職種は次のどれですか。

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教員
6. 大学院生 7. 無職 8. その他 ()

問11. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む看護師教育機関 2. 大学附属病院 3. 病院
4. 診療所 5. 福祉施設 6. 地方公共団体（保健所を含む）
7. 小・中・高校 8. 訪問看護 9. その他 ()

問12. 現在の就業状況についてお答えください。（無職の方を除く）

1. 正規雇用で働いている
2. 非正規雇用で働いている（非常勤職員、パート等を含む）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問13. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
大学教育				
専門基礎科目全般（解剖学・生理学・微生物学・薬剤療養学・栄養学・基礎保健学・疫学など）	4	3	2	1
専門科目全般（臨地実習を除く）	4	3	2	1
臨地実習科目全般	4	3	2	1
学習・生活支援				
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問14. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。
(専門教育全般)

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
看護学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
看護学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問15.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問16. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問17.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【工学部】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1


IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言えば身についた	どちらかと言えば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
言語運用能力						
論理的かつ客観的な文書を作成することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力	4	3	2	1	2	1
工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる力	4	3	2	1	2	1
英語による情報収集能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1	2	1
国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解	4	3	2	1	2	1
工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識	4	3	2	1	2	1
人間、社会、環境についての多角的な視点	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探求能力						
自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力	4	3	2	1	2	1
専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力	4	3	2	1	2	1
工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力	4	3	2	1	2	1
地域理解						
地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる力	4	3	2	1	2	1

- 問10. 工学部のカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。
(工学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組みなど)



ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学卒業生調査【農学部】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦 () 年入学

問2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問4へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問4へお進みください。
 3. 働いていない →問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習(予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習(資格取得(国家試験を含む)に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動(夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ(体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 農学部での専門教育についてお尋ねします。

問9. あなたは在学中に以下の項目にどの程度充実（満足）していましたか。

	充実していた	ある程度充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった
専門教育				
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1
学習・生活支援				
農学部教員との交流	4	3	2	1
農学部における友人との交流	4	3	2	1
農学部における学生相談窓口	4	3	2	1

問10. 以下に示す農学部での学習や経験は、これまでの職業生活に役立っていますか。
また、社会生活全般に役立っていますか。それぞれお答え下さい。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
専門教育								
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1	4	3	2	1
学生生活								
研究室での活動	4	3	2	1	4	3	2	1
就職活動	4	3	2	1	4	3	2	1
友人との交流	4	3	2	1	4	3	2	1

問11. 受講して有益だったと考える農学部開講科目を最大三つまで挙げてください。

()

()

()

問 1 2. 総合的にみて、農学部で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している
3. ある程度満足している
2. やや不満だった
1. 不満だった

問 1 3. 農学部の授業やカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学大学院修了生調査【法学研究科】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

問8-1. 法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

問8-2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問9-1. 法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

問9-2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問10. 法学研究科で受講した授業で、職業生活や社会生活において有益だったと思う科目を挙げてください。(幾つ挙げて構いません。また、理由もお書き添えください。)

問11. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

1. 研究方法に関する授業
2. 実務に関する授業
3. 資格試験対策のための授業
4. 専門以外の教養を高める授業
5. その他 ()
6. 特にない

問12. 総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している
3. ある程度満足している
2. やや不満だった
1. 不満だった

問13. 法学研究科での研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学大学院修士課程調査【経済学研究科】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

IV. ここからは、経済学研究科独自の項目です。

問8. 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学研究科の教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。
また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探究・解決力	4	3	2	1	2	1

問9. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
個別演習・副演習	4	3	2	1
修士論文の執筆	4	3	2	1
プロジェクト活動（参加者のみ回答）	4	3	2	1
実践型／地域インターンシップ（参加者のみ回答）	4	3	2	1
海外研修・留学（参加者のみ回答）	4	3	2	1

問10. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学院時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和3年度実施 香川大学大学院修了生調査【医学系研究科】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえは身についた	どちらかといえは身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

ここからは、医学系研究科独自の項目です。

問 8. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 9. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。(在学時、社会人だった方のみ回答ください)

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 10. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

(博士課程：問 11)

問 11. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。(診療に携わっている方または、今後診療を行う予定の方のみ回答ください)

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

(修士課程看護学専攻：問 12)

問 12. 大学院(修士課程)で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

(修士課程臨床心理学専攻：問 13)

問 13. 大学院(修士課程)で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 14. 医学系研究科独自の自由記述欄

(1) 大学院での教育・研究の実績を今後どのように生かそうと考えていますか。

(2) 大学院での教育・研究において、改善すべき点、良かった点を記載ください。

[改善すべき点]

[良かった点]

(3) 自由記述欄

令和3年度実施 香川大学大学院修了生調査【工学研究科】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

IV. 以下は工学研究科独自の質問項目になります。

問 8. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、工学研究科の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言えば身についた	どちらかと言えば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
専門知識・理解						
自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術	4	3	2	1	2	1
研究能力・応用力						
課題探求能力と高度な問題解決能力	4	3	2	1	2	1
持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観	4	3	2	1	2	1
グローバルマインド						
論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力	4	3	2	1	2	1

問 9. 授業や教育に関する要望、あるいは改善へのご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力大変ありがとうございました。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主(副)指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

問 8. 農学研究科の教育・研究は、以下に示す項目の習得および能力の向上に有用でしたか。

	大いにそう 思う	そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
研究開発マインドの習得	5	4	3	2	1
高度専門職業人となるための幅広い知識の習得	5	4	3	2	1
自ら立案する課題設定能力	5	4	3	2	1
課題を解決するために必要な情報の収集能力	5	4	3	2	1
課題を解決するための手法の探索と遂行能力	5	4	3	2	1
得られた結果に基づいた解析能力	5	4	3	2	1
課題の全容を論理的に取りまとめる能力	5	4	3	2	1
日本語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
英語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
日本語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
英語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
グローバルマインドの習得	5	4	3	2	1

問 9. 農学研究科の専門教育について、どの程度充実していましたか？

	充実して いた	ある程度 充実して いた	どちらとも いえない	やや充実して いなかった	充実して いなかった
基礎科目 (科学研究キャリアテラシー、国際研究コミュニケーション)	5	4	3	2	1
展開科目 (先進科学特論、修士インターンシップ、国際研究発表技法)	5	4	3	2	1
専門科目 (〇〇特論など)	5	4	3	2	1
専門科目 (専攻セミナーI~IV)	5	4	3	2	1
研究科目 (修士研究 I~IV、修士論文)	5	4	3	2	1

令和3年度実施 香川大学大学院修了生調査【農学研究科】（平成30年度修了生）

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問2. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問3へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問3へお進みください。
3. 働いていない →問5へお進みください。

問3. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問4. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問5. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問6. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえは身についた	どちらかといえは身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問7. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

問 8. 農学研究科の教育・研究は、以下に示す項目の習得および能力の向上に有用でしたか。

	大いにそう 思う	そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
研究開発マインドの習得	5	4	3	2	1
高度専門職業人となるための幅広い知識の習得	5	4	3	2	1
自ら立案する課題設定能力	5	4	3	2	1
課題を解決するために必要な情報の収集能力	5	4	3	2	1
課題を解決するための手法の探索と遂行能力	5	4	3	2	1
得られた結果に基づいた解析能力	5	4	3	2	1
課題の全容を論理的に取りまとめる能力	5	4	3	2	1
日本語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
英語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
日本語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
英語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
グローバルマインドの習得	5	4	3	2	1

問 9. 農学研究科の専門教育について、どの程度充実していましたか？

	充実して いた	ある程度 充実して いた	どちらとも いえない	やや充実して いなかった	充実して いなかった
基礎科目 (科学研究リテラシー、ベーシック国際研究コミュニケーション、応用生物科学クロストークセミナー)	5	4	3	2	1
希少糖共通科目 (希少糖イノベーション、希少糖植物科学特論、希少糖応用生命科学特論、希少糖食品科学特論)	5	4	3	2	1
展開科目 (応用生物科学先進科学セミナー、修士インターンシップ、国際修士インターンシップ、アドバンスド国際研究コミュニケーション、国際研究実践コミュニケーション)	5	4	3	2	1
専門科目 (○○特論など)	5	4	3	2	1
専門科目 (専攻セミナーI~III)	5	4	3	2	1
研究科目 (修士研究I~IV、修士論文)	5	4	3	2	1
研究科目 (国際研究A・B) *研究留学	5	4	3	2	1
研究科目 (実践研究) *社会人学生	5	4	3	2	1

香川大学卒業生についてのアンケート調査（企業・官庁等用）

問1. 貴組織の事業（主たるもの）についてお答えください。

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 農林・水産関係 | 2. 建設・機械関係 | 3. 食品・化学関係 |
| 4. 情報・通信関係 | 5. 商社・金融関係 | 6. 販売・サービス関係 |
| 7. マスコミ・出版関係 | 8. 保健・衛生・医療関係 | 9. 公務員（国・地方自治体） |
| 10. 教育関係 | 11. その他（ | ） |

問2. 貴組織の従業員数についてお答えください。

- | | | |
|-----------------|--------------|---------------|
| 1. 10人未満 | 2. 10～100人未満 | 3. 100～500人未満 |
| 4. 500～1,000人未満 | 5. 1,000人以上 | |

問3. 貴組織における直近4ヵ年の香川大学卒業生の採用数について、概数をお答えください。

- | | | | |
|---------|-----------|------------|----------|
| 1. 3人未満 | 2. 3～5人未満 | 3. 5～10人未満 | 4. 10人以上 |
|---------|-----------|------------|----------|

問4. 貴組織における直近4ヵ年の香川大学卒業生に対する満足度をお答えください。

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. ある程度満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|-----------|---------|-------|

問5. 香川大学卒業生は、現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身につけていますか（必要とされない能力は「必要とされない」をお選びください）。

	身につけている	どちらかといえば身につけている	どちらかといえば身につけていない	身につけていない	必要とされない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	0
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	0
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	0
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	0
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	0
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	0
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	0
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	0
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	0
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	0
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	0
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	0

17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	0
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	0
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	0
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	0
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	0
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	0
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	0
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	0

問6. 香川大学に対するご意見やご要望等がございましたら、自由にお書きください。

第2章 調査結果について

<卒業生によるアンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

①労働状況（問3、問5）・・・表1、表2参照

令和3年度では、正規雇用で働いているが約90%、現在の職業に満足している（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）は約80%であり、過去3回の調査から大きな変化はない。

②大学教育を通じて身についた能力（問8-1）・・・図2、図3参照

令和3年度で70%以上：自己教育の態度（図2①と②）、日本語の言語運用能力（図2③と④）、問題解決・課題探究能力（図3⑮～⑰）、倫理観・社会的責任（図3⑳と㉑）
令和3年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力（図2⑤～⑧・40%以下）

③これまでの職業経験の中で役立った能力（問8-2）・・・図4、図5参照

令和3年度で70%以上：自己教育の態度（図4①と②）、日本語の言語運用能力（図4③と④）、問題解決・課題探究能力（図5⑮～⑰）、リスクマネジメント能力（図5⑱と⑲）、倫理観・社会的責任（図5㉑と㉒）

令和3年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力（図5⑤～⑧・20～30%）

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

第1に、労働状況については大きな変化はなく、正規雇用で働いている割合も職業に対する満足度も、過去3回の調査から継続して高い。第2に、過去3回の調査から継続的に、大学教育で身につく、かつ、これまでの職業経験の中で役立っていると多くの卒業生が回答した能力には、日本語の言語運用能力、問題解決・課題探究能力、倫理観・社会的責任（これらは学士課程のディプロマ・ポリシー5つの構成要素のうち3つ）がある。第3に、これまでの職業経験の中で役立った能力のみをみると、自己教育の態度、日本語の言語運用能力、問題解決・課題探究能力、倫理観・社会的責任に関する値は高く、前回調査よりも5～10%増加している。ここから、学士課程でのディプロマ・ポリシーの獲得が職業経験に役に立つということが理解されてきたことがうかがえる。第4に、今年度より調査を開始したリスクマネジメント能力については、大学教育を通じて身についた能力60%以上、これまでの職業経験の中で役立った能力70%以上、という比較的高い値が得られた。

【改善を要する点】

大学教育を通じて身についた能力のうち、外国語の言語運用能力は、継続して課題となっている。前回調査の報告書でも言及したが、第3期中期計画では、英語に触れる機会や地域社会で留学生と日本人学生が協働して学ぶ機会を増加させることが明記されていた。そうした協働して学ぶ機会を設けることが継続的に求められるほか、コロナ禍においては、遠隔会議システムを活用した学びを充実させることが必要とされている。

【参考資料】

	令和3年度	31（令和元）年度	30年度	28年度
1. 正規雇用で働いている	89.8%	90.2%	86.7%	85.4%
2. 非正規雇用で働いている	6.2%	6.3%	8.5%	9.2%
3. 働いていない	4.0%	3.3%	4.4%	4.5%

表1. 現在の勤務先の就業形態

	令和3年度	31（令和元）年度	30年度	28年度
1. 満足している	32.7%	36.8%	36.7%	36.0%
2. ある程度満足している	49.8%	48.2%	44.6%	46.2%
3. あまり満足していない	10.6%	9.5%	10.4%	10.8%
4. 満足していない	3.0%	1.9%	3.8%	1.9%

表2. 現在の職業の満足度

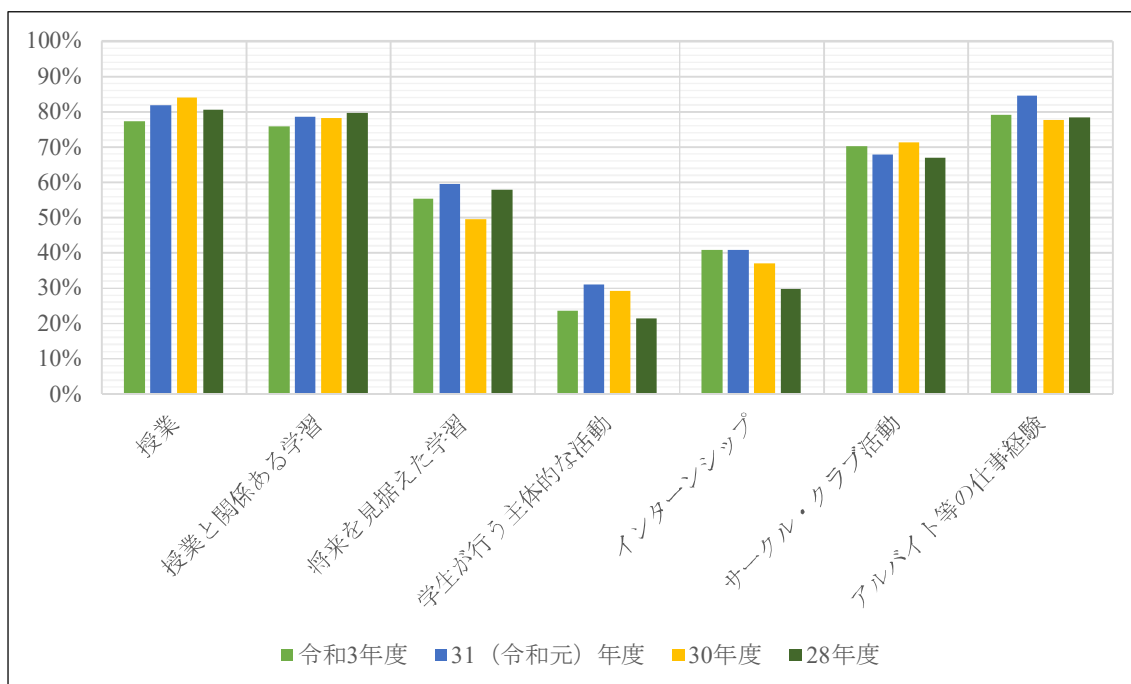


図1. 在学中の取り組み

注1：図1の具体的な内容は、次のとおりである。授業（授業時間中）、授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）、将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）、学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）、インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）、サークル・クラブ活動、アルバイト等の仕事経験。

注2：図1の値は、在学中の取り組みで「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」の合計値を示している。

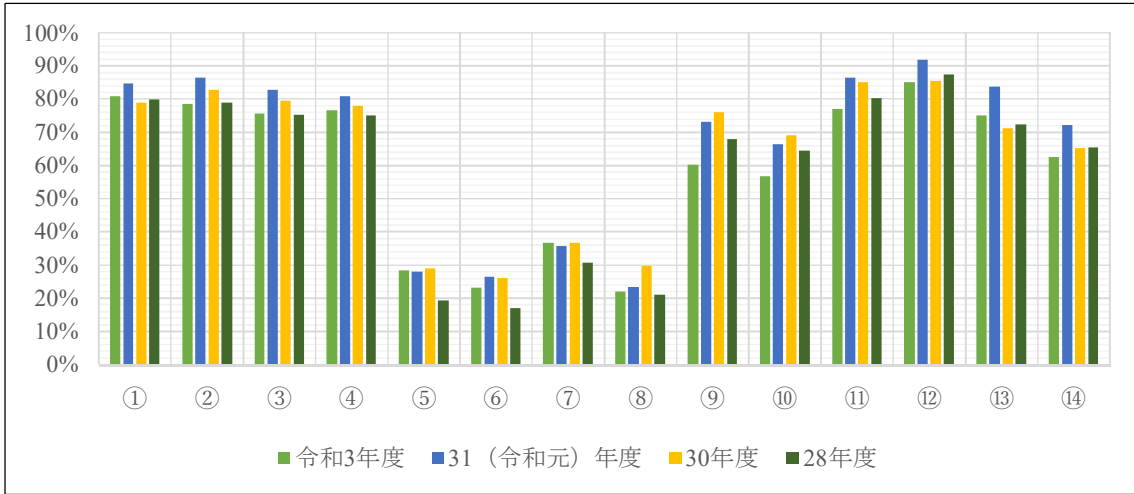


図2. 大学教育で身についた能力 (①～⑭)

注1：図2の各番号は、次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注2：図2の値は、大学教育で「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。

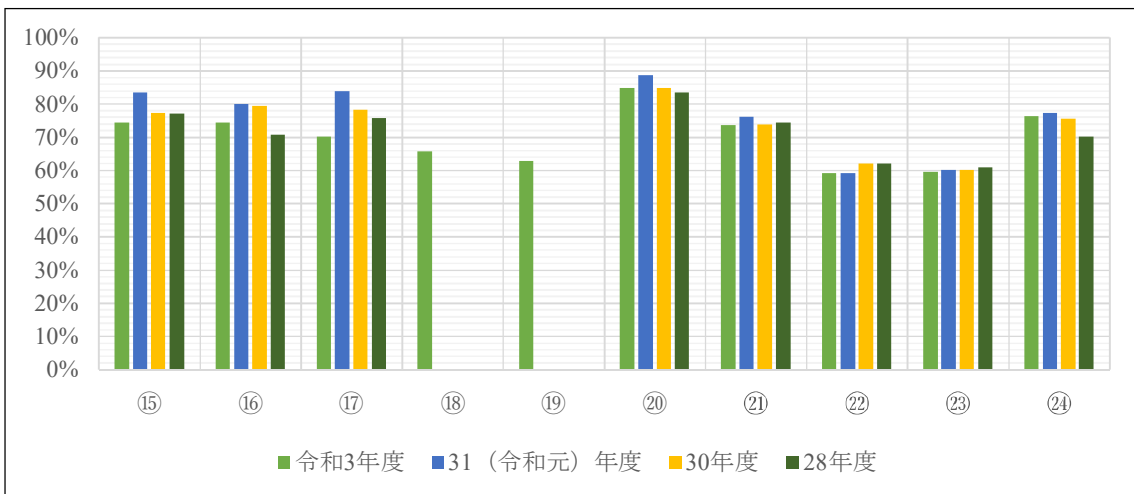


図3. 大学教育で身についた能力 (⑮～㉔)

注1：図3の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和3年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注2：図3の値は、大学教育で「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。

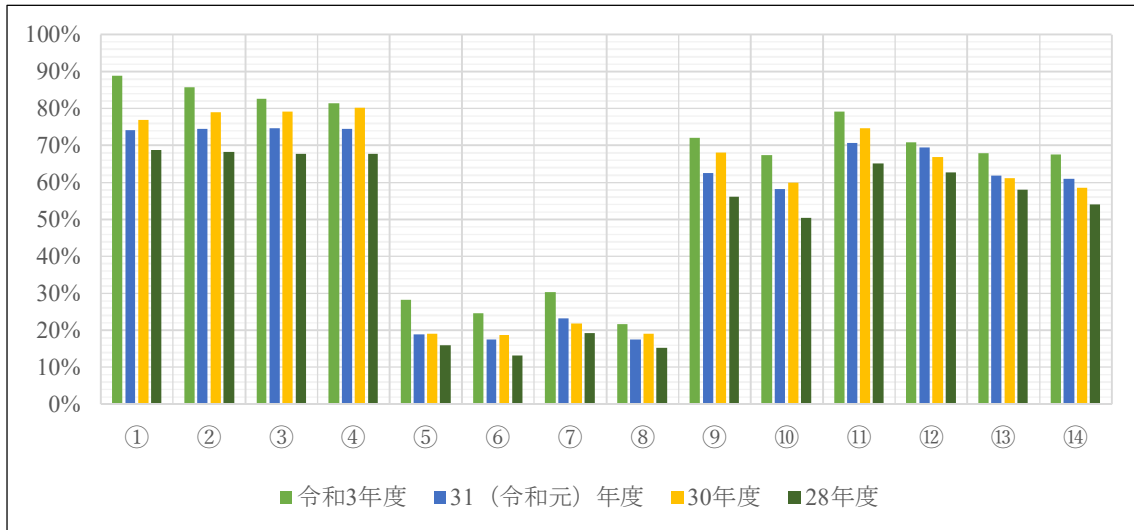


図4. これまでの職業経験の中で役立った能力(①～⑭)

注1: 図4の各番号は次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注2: 図4の値は、「役立っている」の値を示している。

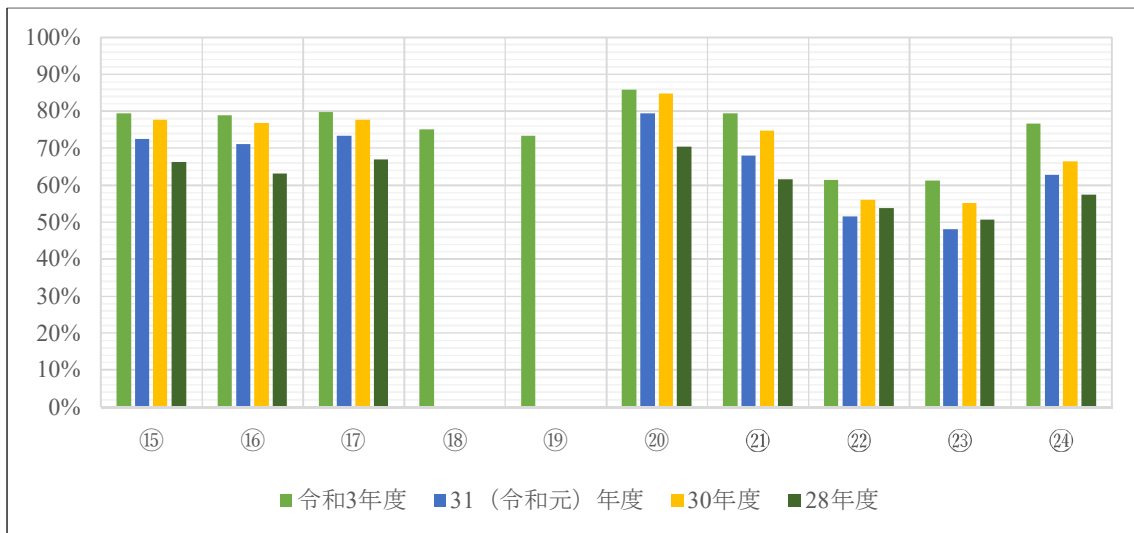


図5. これまでの職業経験の中で役立った能力(⑭～⑳)

注1: 図5の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和3年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注2: 図5の値は、「役立っている」の値を示している。

2. 学部に関する分析

教育学部

(1) 分析結果

まず今回の分析は、H29 及び H30 年教育学部卒業生 408 名を対象として行われ、その内、学校教育教員養成課程 110 名、人間発達環境課程 36 名（以後、教員養成、人間発達とする）、合計 146 名から得られた回答に基づいている。本回収率は両課程共に約 35% となっており、他学部の回収率との比較ではそれらを 10% 以上上回るものであった。まず本結果から、本学部卒業生が母校の教育改善に貢献したいという強い思いを持っていることが感じ取れた。

各質問項目の結果からは、総じて大学での教育内容について満足して卒業した様子が窺われた。まず、総合的な満足度を問う質問（問 14）において、「4. 満足している」「3. ある程度満足している」の回答率は、教員養成が約 92%、人間発達が約 97% であった。「2. あまり満足していない」「1. 満足していない」の回答率は、教員養成が約 4%、人間発達が約 3% に止まった。次に、専門科目についての満足度を問う質問（問 9）において、「4. 満足だった」「3. ある程度満足だった」の回答率は、教員養成が約 87~96%、人間発達が約 86~94%、「2. やや不満だった」「1. 不満だった」の回答率は、教員養成が約 6~13%、人間発達が約 6~14% であった。基礎的な研究から、実践研究、発展研究とそれぞれ多少の差異はあるものの、いずれの科目群についても高い満足度を示していた。

また、「教員の教授方法」「教育実習など現場実習の充実」等についての満足度を問う質問（問 13）において、「4. 満足していた」「3. ある程度満足していた」の回答率は、教員養成が約 80~86%、人間発達が 72~97% であった。「2. やや不満だった」「1. 不満だった」の回答率は、教員養成が約 7~15%、人間発達が約 3~28% であった。とりわけ少人数によるゼミ形式での授業に関して両課程共に高い満足度（教員養成 86%、人間発達 97%）が示されており、きめ細やかな指導が卒業生から評価されたのではないかと考えられた。他方、強いて言えば、人間発達における「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」についての質問でやや満足度が低く（72%）なっていた。教員と語り合う時間を増やすことができるように、さらに気軽に相談できる環境を作っていく必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 1) 総じて卒業生は大学での教育内容について高い満足度を示しているほか、卒業後も母校に対して関心の高い学生を輩出できていると考えられた。
- 2) 少人数によるゼミ形式での授業に関して両課程共に高い満足度が示されており、きめ細やかな指導が卒業生から評価されたと考えられた。

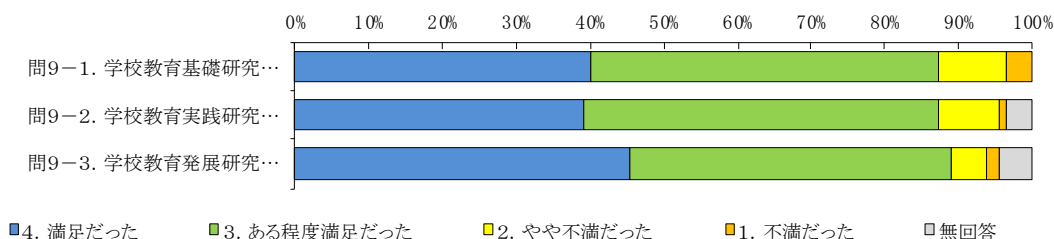
【改善を要する点】

- 1) 強いて言えば、人間発達における「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」についての質問でやや満足度が低くなっていた。教員と語り合う時間を増やすことができるように、さらに気軽に相談できる環境を作っていく必要がある。

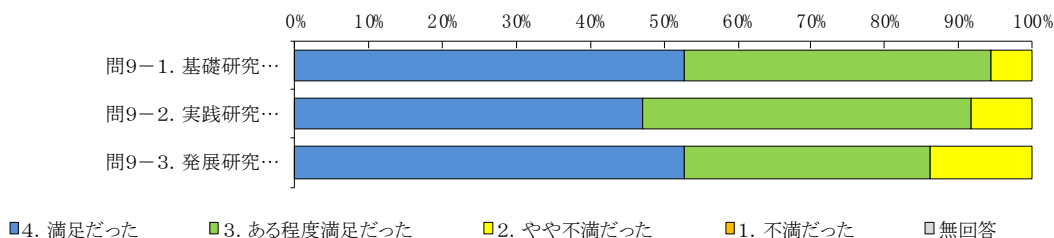
【参考資料】

問9. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。

< 教員養成 >

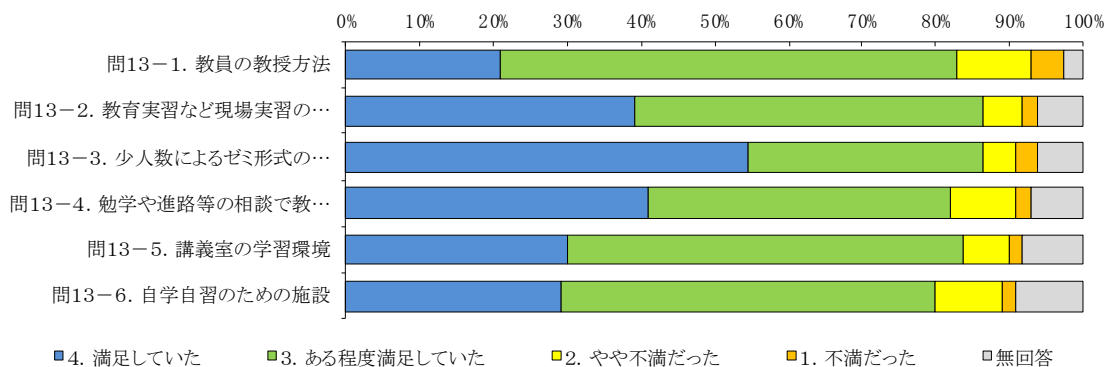


< 人間発達 >

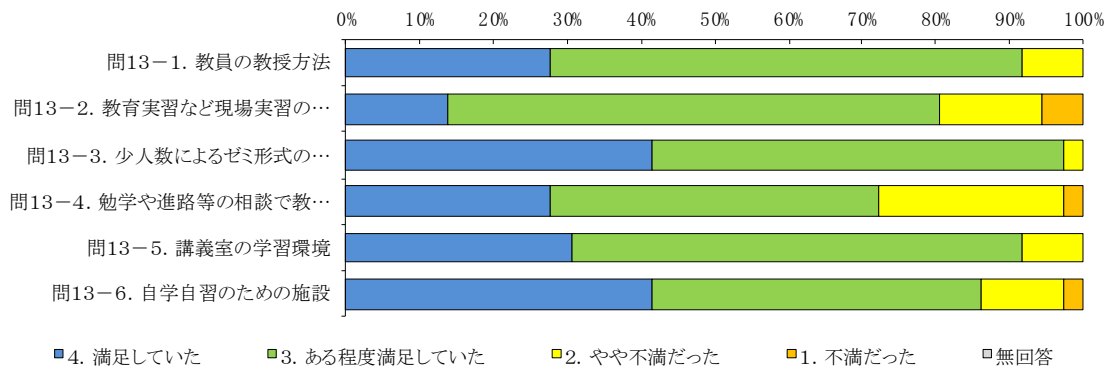


問13. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

< 教員養成 >

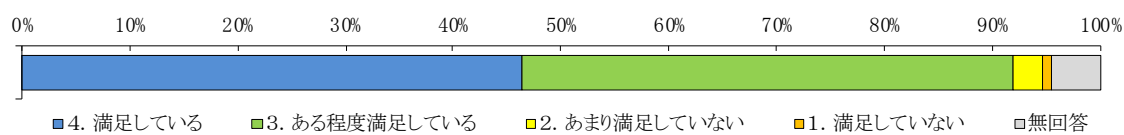


< 人間発達 >

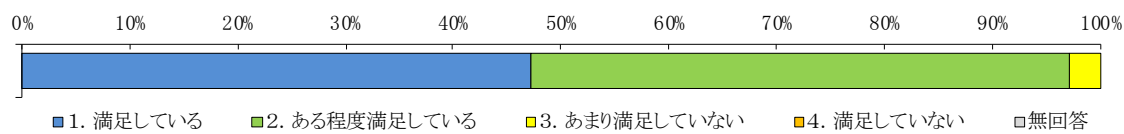


問1 4. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。

< 教員養成 >



< 人間発達 >



法学部

(1) 分析結果

アンケートの調査対象者は卒業後3年目および4年目の卒業生であり、67名の法学部卒業生が回答した。

① 共通設問の分析

在学中に熱心に取り組んでいた活動(問7)について、「インターンシップ」「サークル・クラブ活動」の割合が低く、特に後者は、全学との比較でおよそ9ポイントを下回っている(参考資料・図1参照)。

大学教育を通じて身についた知識・能力(問8)のうち法学部に特徴的な設問項目において、「日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力」「日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力」が「身についた」「どちらかといえば身についた」と回答した割合が高く、全学との比較でも10ポイントを優に超える結果となっている。前回(令和元年度実施)の調査で全学よりも15ポイント程度下回っていた「情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力」「様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力」について、今回の調査では、前者は全学を上回り、後者については全学よりも10ポイント程度下回っている(参考資料・図2参照)。

② 学部設問の分析

法学部での学びに対する総合的な満足度は高く、31.3%が「満足している」、55.2%が「ある程度満足している」と回答している(問15)。

授業や学習環境等に関する設問項目(問9)において、「少人数によるゼミ形式の授業(演習など)」の満足度は非常に高く、44.8%が「満足している」(41.8%が「ある程度満足している」と回答している。他方で、他の設問項目と比較して、「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」における「満足」「ある程度満足」は65.7%とやや低いものの、満足度が47%にとどまっていた前回の調査時よりも大きく改善している(参考資料・図3参照)。

法学部の開講科目(問10)について、演習や公法系科目、民事法系科目に職業生活・社会生活に「役立っている」「ある程度役立っている」との回答が多い。これに対して、基礎法系、経済法系、政治系の各科目におけるこれらの回答は50%を下回り、特に国際法系科目では職業生活で29.9%、社会生活で35.8%にとどまっている(参考資料・図4参照)。

法学部の専門教育を通じて身についた知識・能力(問11)について、「法律・法律学に関する知識」や「社会一般に関する知識や関心」「論理的に考える力」が身についたとする回答の割合が80%を超えている。他方で、「経済活動に関する知識や関心」「歴史的視点」「国際的視野」が身についたとする回答は、それぞれ49.3%、52.2%、52.2%であった。仕事や社会生活において必要とされる知識・能力(問12)についても、「法律・法律学に関する知識」を挙げる回答が多い一方、いくつかの設問項目では、法学部の専門教育を通じて身についた知識・能力(問11)とは異なる結果となっている(参考資料・図5参照)。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

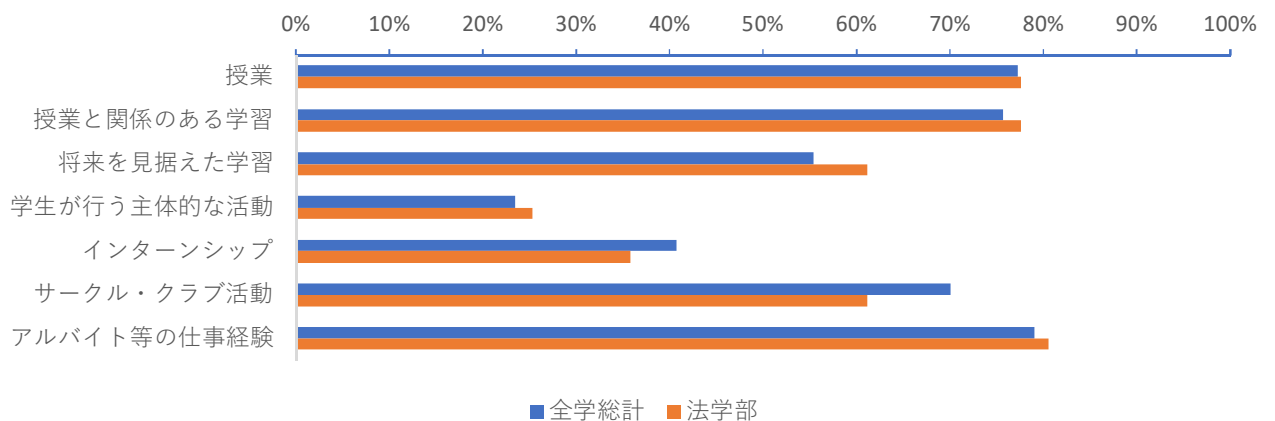
総体的にみて、在学中における法学部教育への満足度は高い。なかでも、少人数教育に対する満足度は非常に高く、1年次配当科目の基礎ゼミから2年次のプロゼミ、3・4年次の演習を通じた4年間の少人数教育の成果がこれに反映されているといえる。また、「情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力」や「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」といった設問項目では、前回の調査時よりも大きくポイントが上昇しており、改善の傾向がみられる。

【改善を要する点】

「様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力」について、前回の調査時よりも改善の傾向がややみられるものの、全学のみならず他学部生との比較においても、こうした力は身につけていないと認識されているようである。また、法学部の専門教育を通じて身につけた知識・能力とは異なり、卒業後の仕事や社会生活において必要とされる知識・能力として、「経済活動に関する知識や関心」「幅広い視野」「国際的視野」「人前で報告する力」「自主的に学び続ける力」を挙げる回答が比較的多いことから、こうした点から学部教育のあり方を検討することも必要であると考えられる。

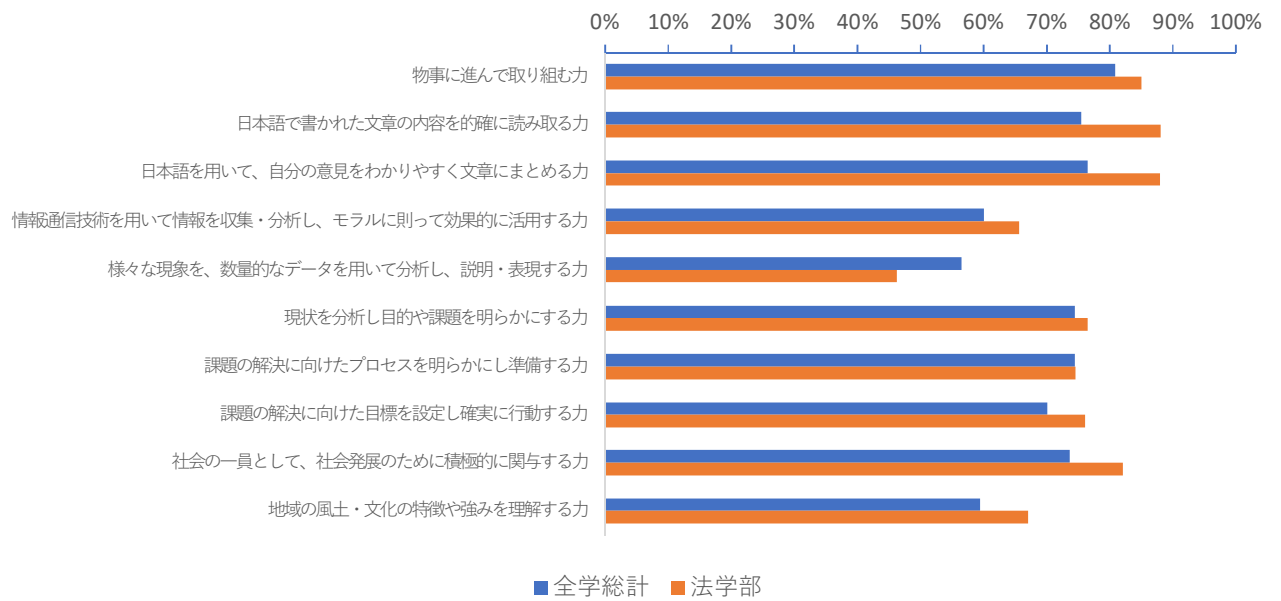
【参考資料】

図1 在学中に熱心に取り組んでいた活動



※ 値は「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」の合計

図2 大学教育を通じて身についた知識・能力（一部抜粋）



※ 値は「身についた」「ある程度身についた」の合計

図3 授業や学習環境等への満足度

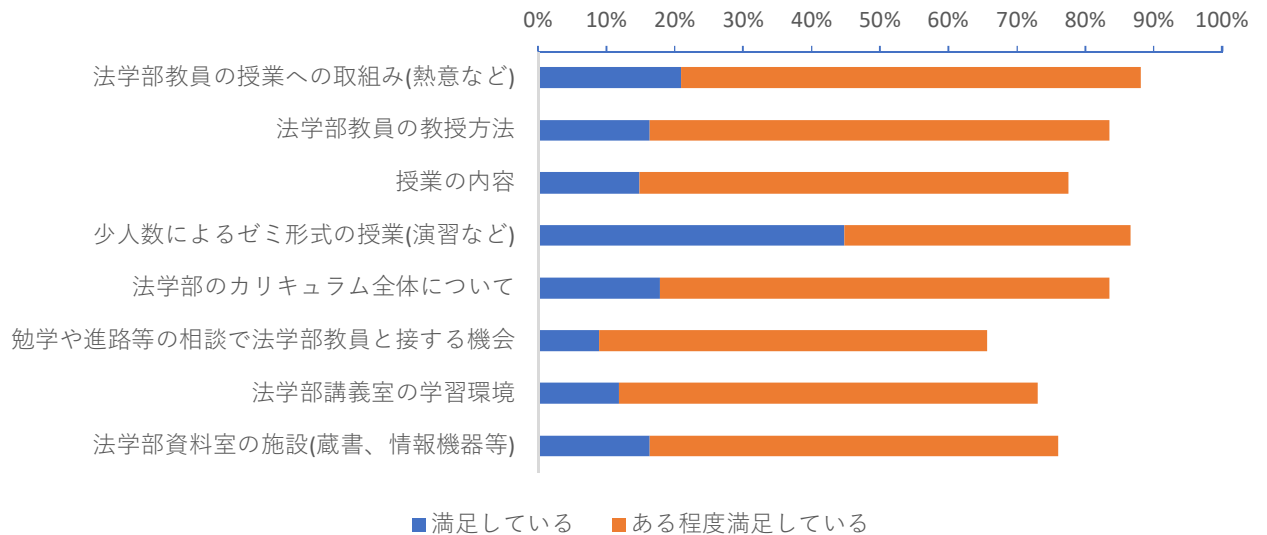
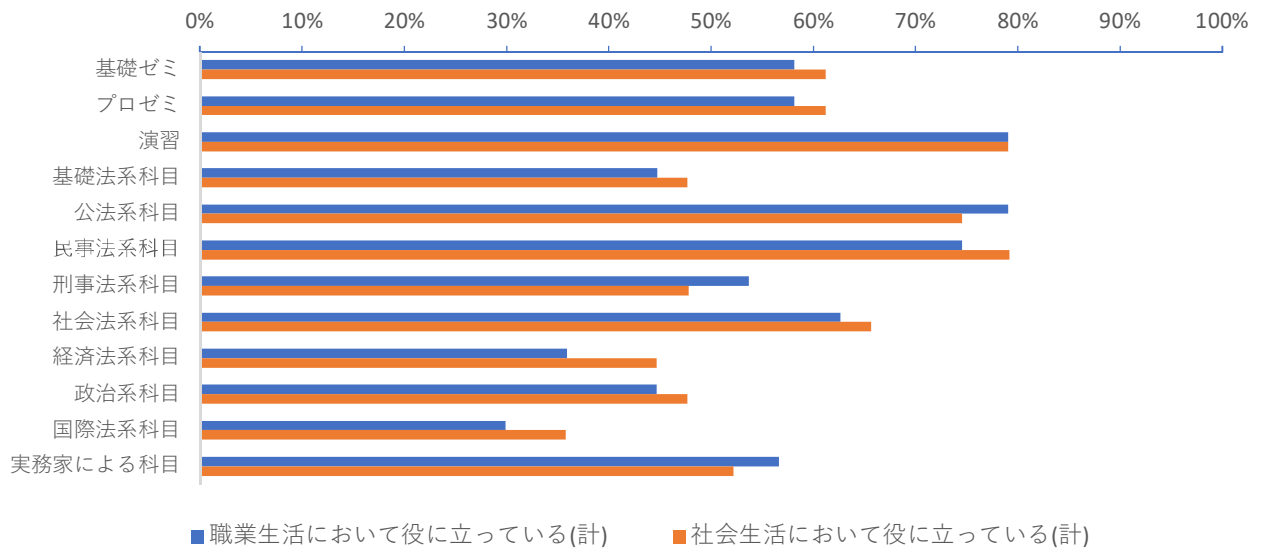
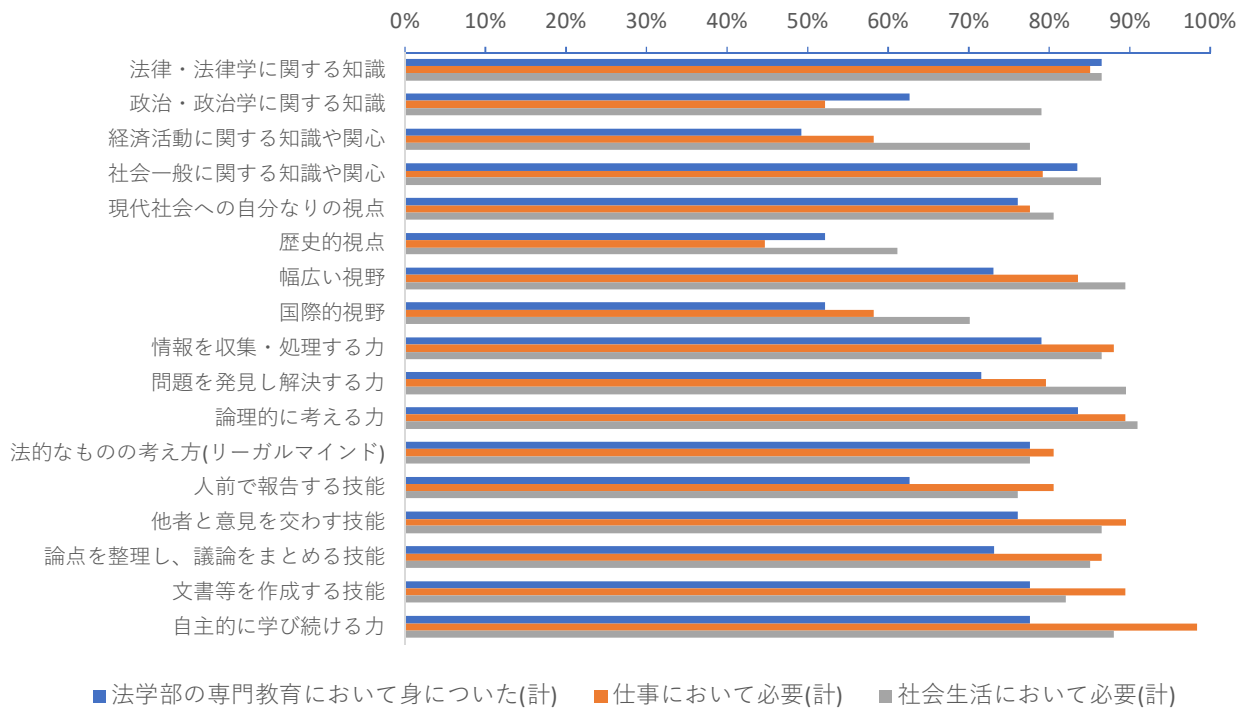


図4 開講科目の職業生活・社会生活における役立ち度



※ 値は「役に立っている」「ある程度役に立っている」の合計

図5 仕事・社会生活において必要な知識・能力と専門教育を受けて身についた知識・能力



※ 値は「必要」「ある程度必要」、「身についた」「ある程度身についた」の合計

経済学部

(1) 分析結果

今回のアンケート調査では81人の卒業生から回答があった。以下では、調査項目のうち学部の専門教育に関する回答結果について記述する。

①知識（問9-1 から問9-10 まで）

- ・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「経済についての知識」が85.2%と最も高く、「経営についての知識」と「地域の活性化についての知識」が65.4%と次に高いのに対し、「統計についての知識」が51.8%と最も低い。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「経済についての知識」が77.8%と最も高いのに対し、「人類の文化および社会についての幅広い知識」が34.6%と最も低い。

②データ分析能力（問9-11 と問9-12）

- ・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が53.1%、「定性的なデータ分析能力」が54.3%であり、いずれも全体回答者の半数以上は満たしているものの、十分な水準とは言えない。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が56.8%、「定性的なデータ分析能力」が55.6%であり、いずれも半数以上の回答者から評価されているものの、十分な水準とは言えない。

③複眼的思考力等（問9-13 から問9-16 まで）

- ・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が67.9%、「チャレンジ精神や行動力」が70.4%、「コミュニケーション力」が76.5%、「課題探求・解決力」が72.8%であり、いずれも十分な水準である。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が72.8%、「チャレンジ精神や行動力」が76.5%、「コミュニケーション力」が80.2%、「課題探求・解決力」が74.1%であり、いずれも十分な水準である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

「経済についての知識」、「コミュニケーション力」、「課題探求・解決力」、「チャレンジ精神や行動力」及び「複眼的思考力」においては、専門教育で十分に身につけ、それらを仕事で役立てている。また、「経営についての知識」や「地域の活性化についての知識」も専門教育で十分に身につけていると言える。

【改善を要する点】

学部の専門教育課程を通じて身についた知識・能力に偏りが見られる。相対的に見て低水準となっているのは、「統計についての知識」、「世界各地域の経済についての知識」、「定量的なデータ分析能力」等である。より多くの学生が、統計やデータ分析に関する授業科目を履修するべく、カリキュラムの調整を実施する等、履修科目の偏りを小さくする工夫が求められる。

【参考資料】

	身についた	どちらかといえば 身についた	合計	役立っている
問9-1.	23.5%	61.7%	85.2%	77.8%
問9-2.	11.1%	40.7%	51.8%	50.6%
問9-3.	13.6%	48.1%	61.7%	60.5%
問9-4.	17.3%	34.6%	51.9%	53.1%
問9-5.	21.0%	44.4%	65.4%	54.3%
問9-6.	14.8%	44.4%	59.2%	48.1%
問9-7.	16.0%	40.7%	56.7%	40.7%
問9-8.	18.5%	46.9%	65.4%	49.4%
問9-9.	9.9%	42.0%	51.9%	39.5%
問9-10.	11.1%	45.7%	56.8%	34.6%
問9-11.	6.2%	46.9%	53.1%	56.8%
問9-12.	8.6%	45.7%	54.3%	55.6%
問9-13.	13.6%	54.3%	67.9%	72.8%
問9-14.	28.4%	42.0%	70.4%	76.5%
問9-15.	33.3%	43.2%	76.5%	80.2%
問9-16.	18.5%	54.3%	72.8%	74.1%

- 問9-1. 経済についての知識
- 問9-2. 統計についての知識
- 問9-3. 金融についての知識
- 問9-4. 会計についての知識
- 問9-5. 経営についての知識
- 問9-6. 商学・マーケティングについての知識
- 問9-7. 観光についての知識
- 問9-8. 地域の活性化についての知識
- 問9-9. 世界各地域の経済についての知識
- 問9-10. 人類の文化および社会についての幅広い知識
- 問9-11. 定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
- 問9-12. 定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
- 問9-13. 複眼的な思考力
- 問9-14. チャレンジ精神や行動力
- 問9-15. コミュニケーション力
- 問9-16. 課題探究・解決力

医学部医学科

(1) 分析結果

卒業生アンケートとして医学部医学科では計 32 名のアンケート結果であるが、学年学生数が 100 名以上である点を考慮すると、やや少なく、全体像を把握するのは困難である。

アンケート結果の分析では、ほぼ全員が医療職に従事し、特に研究職ではなく臨床医（内科系 5 割、外科系 3 割、その他 2 割）として勤務（大学病院 2.5 割、一般病院 7 割）であった。

在学中の教育に関しては、シラバス、教育法、学習法、カリキュラム、評価法に関してほぼ全ての項目で 6~7 割以上が「ある程度満足」との回答であったが、基礎医学系の学習法、カリキュラムに関して 5 割程度であった。一方で、自習室の整備に関しては不満が強かった。

大学教育の基礎知識の習得に関する満足度は 9 割ととても高い反面、患者やその家族との信頼関係の形成や、医療職者間での協力関係の形成に関する事項について、身についている学生は 5~6 割程度との報告であった。

さらに国家試験に関する教育に関しては、8 割以上で行われていたとする評価であった。総合的に医学科での学習に関しては、9 割程度の学生が満足しているとの評価であった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学に関する基礎的、専門的内容の学習に関しては、充実した学習ができています。

【改善を要する点】

自習室の整備について、学生に平等に確保されている状況ではなく、改善が望まれる。

臨床実習における、患者やその家族と信頼関係の形成や、医療職者間での協力関係の形成に関する学習の機会を増やす必要がある。

総合的な視点から見ると、外国語（英語）を使用した学習が出来ておらず、教育体制の改善について検討が必要である。

医学部看護学科

(1) 分析結果

県内在住者の割合は、入学時 72.4% (21 人) から現在 55.2% (16 人) に減少 (5 人減) しているが、半数以上が県内で活躍している。しかし、アンケートの回答数が 29 人しかなく、卒業生全体の動向を示しているとは言えないため実態の把握は難しい (問 9)。現在の職種は看護師 (69.0%)、保健師 (20.7%)、養護教諭 (6.9%)、助産師 (3.4%) であり、助産師以外の 96.6% が本学での取得資格で就業している (問 10)。勤務場所は大学附属病院または病院が中心 (58.6%) であり (問 11)、前回 96.7% であった正規雇用が 86.2% に減少している (問 12)。

在学当時の学習や活動の満足度について (問 13)、大学教育では専門基礎科目は、「満足」または「ある程度満足」が 100% である。専門科目と臨地実習では、それぞれ 82.7% と 86.2% であり、満足度は高い。学習・生活支援については、自習室に関する項目以外で、7 割以上の学生が「満足」または「ある程度満足」と感じている。特に、授業以外で教員と接する機会、学生の交流スペース、クラブ・サークル関係施設・設備等では、82.8% と高い満足度であった。自習室については、「やや不満」「不満」が 31.0% であった。学習や活動の満足度および学習・生活支援共に、前回の調査より満足の割合が低下しているが、無回答者も 10% 以上いることから、実態の把握は難しい。

在学中に「身についた」または「ある程度身についた」能力としてあげられるものは、看護学の基礎知識 (96.5%)、医療人に求められるモラルや礼儀 (86.2%)、専門職業人として生涯自己研鑽する能力 (82.8%)、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成 (82.7%)、患者・家族と人間関係を形成する能力 (82.7%) であった。全ての項目について、7 割以上が身についたと自己評価している。しかし、科学的分析力と探究能力は、「あまり身につけていない」が 13.8% であった。現在の仕事の中では、科学的分析力と探究能力以外は、82.7~96.6% が「必要」または「ある程度必要」と考えており、大学の設定する「身につけるべき事項」で科学的分析力と探究能力において、卒業生の評価結果との間にずれが生じている (問 14)。また、国家資格取得に必要な教育では、「行われていた」または「ある程度行われていた」が 93.1% である (問 15)。本学医学部で学んだことについては、96.5% が「満足」または「ある程度満足」と考えており、その総合的な満足度は非常に高い (問 17)。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部看護学科で学んだことに対する総合的な満足度は全体として非常に高い。特に看護の基礎知識と看護の視点から、問題を総合的に分析・判断・解決する能力や人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成、医療人に求められるモラルや礼儀は、専門職業人としての資質と態度醸成が確実に身につけていると高く評価できると考える。

【改善を要する点】

科学的分析力と探究能力への教育及び自習スペースの拡大、環境整備などの改善が求められる。

【参考資料】

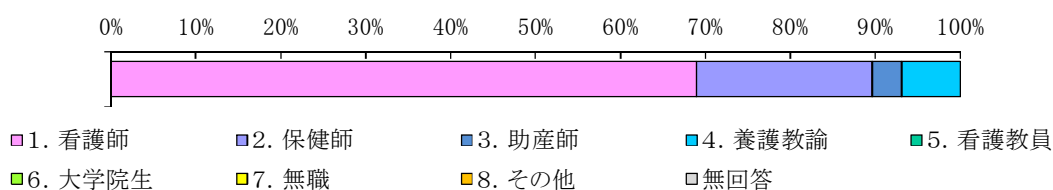


図1 (問10) 現在のあなたの職種はどれですか。

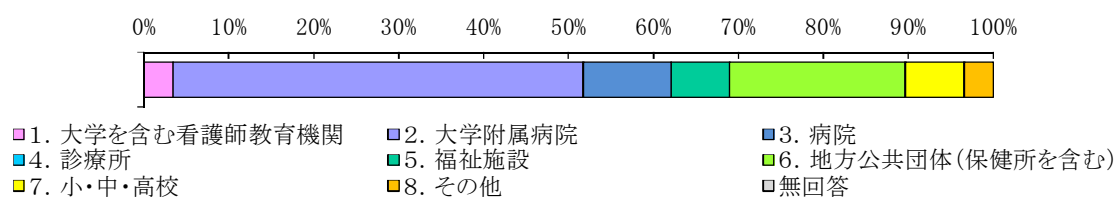


図2 (問11) 現在の勤務場所はどれですか。

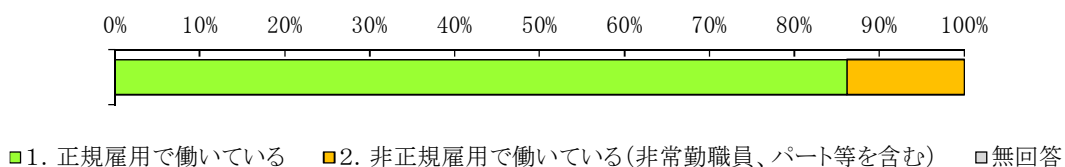


図3 (問12) 現在の就業状況について。

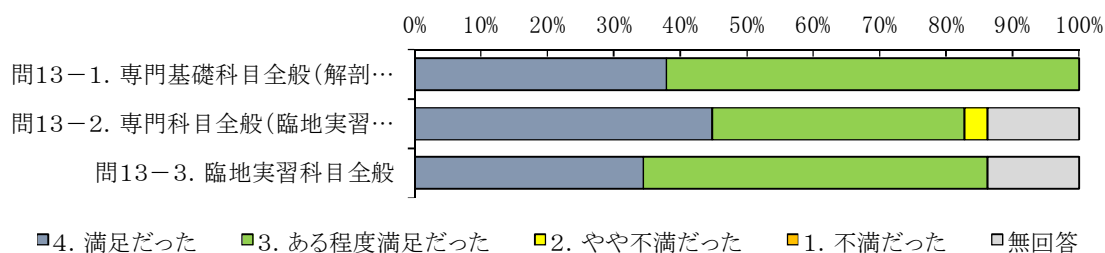


図4 (問13) あなたは各項目についてどの程度満足していましたか(大学教育)。

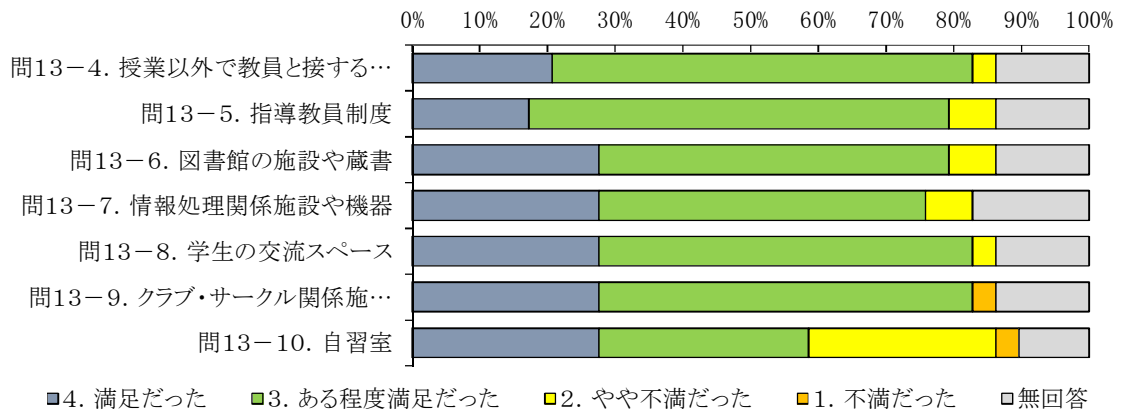


図5 (問13) あなたは各項目についてどの程度満足していましたか(学習・生活支援)。

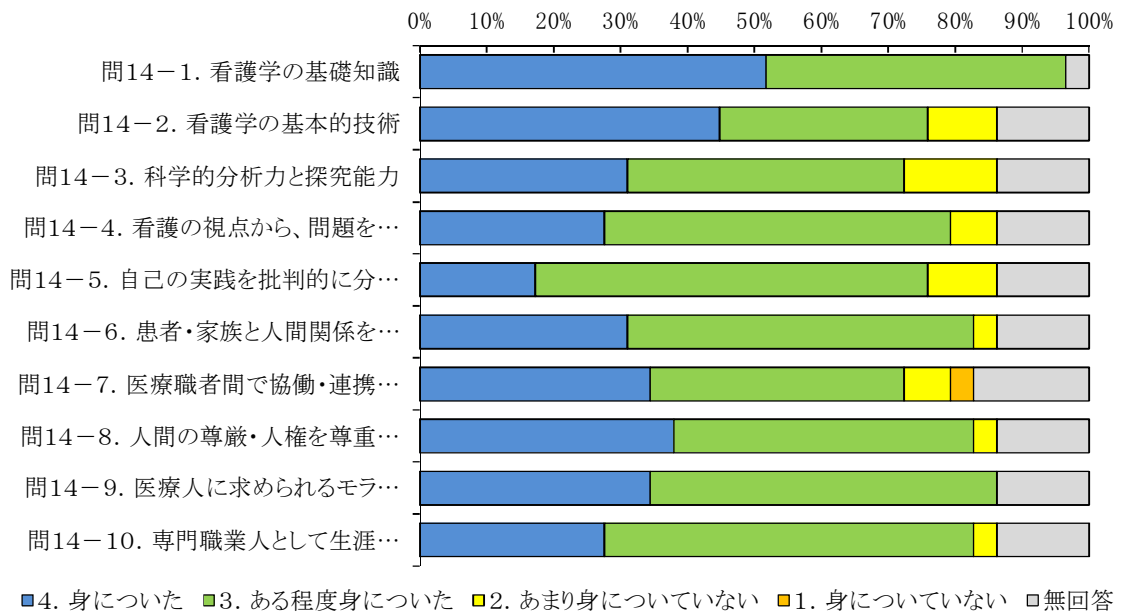


図6 (問14) さまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。

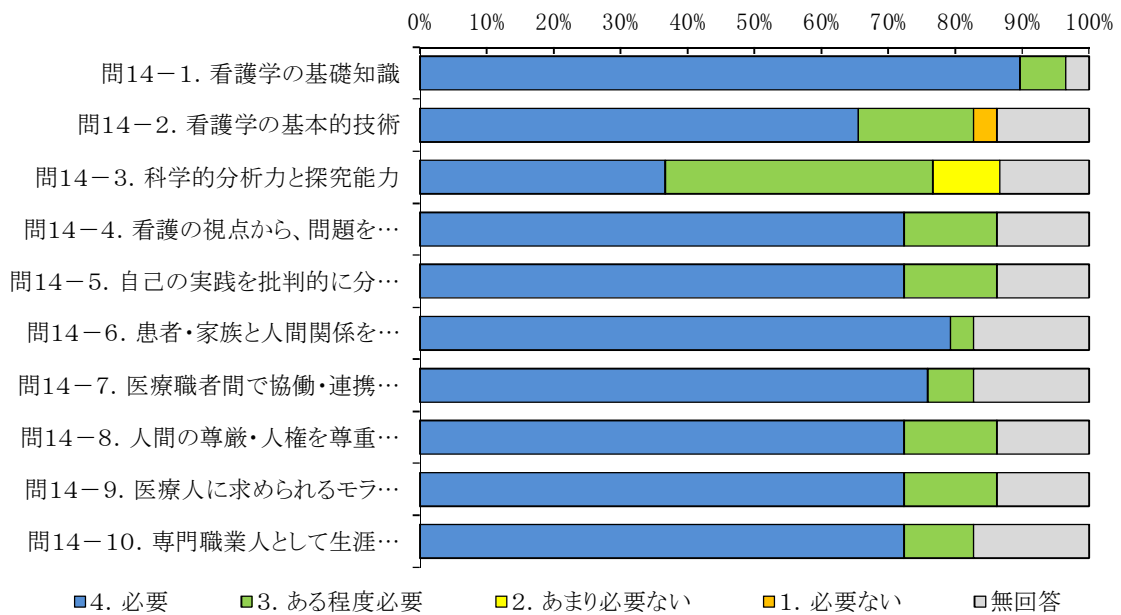


図7 (問14) さまざまな能力は、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。

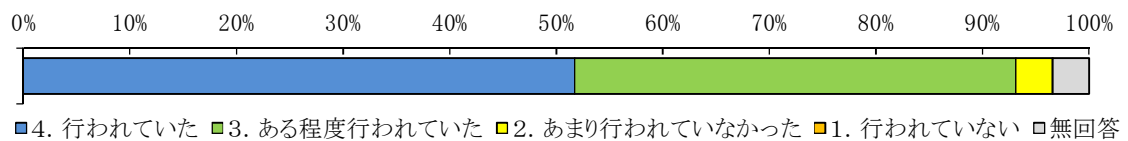


図8 (問15) 国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。

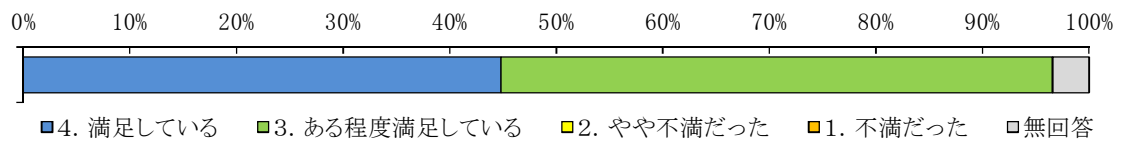


図9 (問17) 総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。

創造工学部（工学部）

（１）分析結果

工学部卒業生（平成 29 年度～平成 30 年度卒業生）のアンケート回答人数は 87 名である。

言語運用能力（参考資料：図 1）について、「論理的かつ客観的な文書を作成することができる力」の肯定回答（「身についた」と「どちらかと言えば身についた」）は 70%強である。「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」の肯定回答は 70%近くである。一方、「英語による情報収集能力、コミュニケーション能力」および「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」の肯定回答は 40%以下となった。

知識・理解（参考資料：図 2）について、「自然科学の基礎知識および基本原理の理解」の肯定的回答は 60%近く、「工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識」の肯定的回答は約 70%、「人間、社会、環境についての多角的な視点」の肯定的回答は 60%以上である。

問題解決・課題探究能力（参考資料：図 3）について、「自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力」、「専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力」、「多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力」はどれも 70%近くの肯定回答である。

倫理観・社会的責任（参考資料：図 4）について、「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」は 60%以上の肯定回答だが、「市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力」は 60%以下である。

地域理解（参考資料：図 4）について、「地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探究することができる力」は 60%近くが肯定回答である。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

工学の重要知識・技能である「論理的かつ客観的な文書を作成することができる力」、「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」、「工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識」、「人間、社会、環境についての多角的な視点」、自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力、「専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力」、「多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力」、「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」は十分獲得できていて役に立っていると認識されている。

【改善を要する点】

「英語による情報収集能力、コミュニケーション能力」、「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」についての教育に改善が必要と考える。

【参考資料】

図1 言語運用能力：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか。

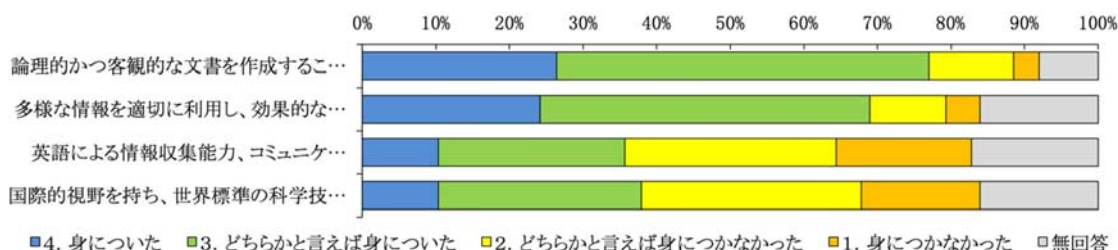


図2 知識・理解：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか。

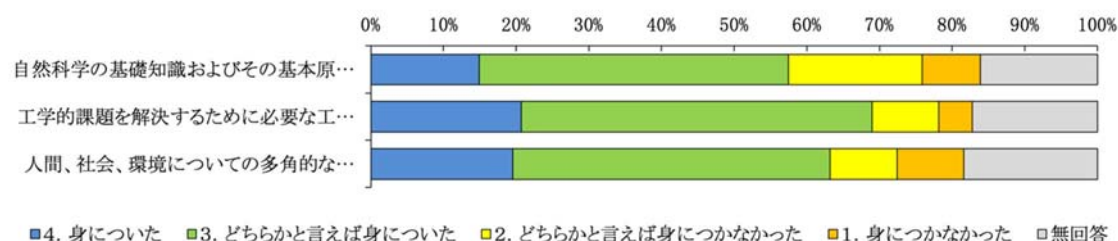


図3 問題解決・課題探究能力：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか。

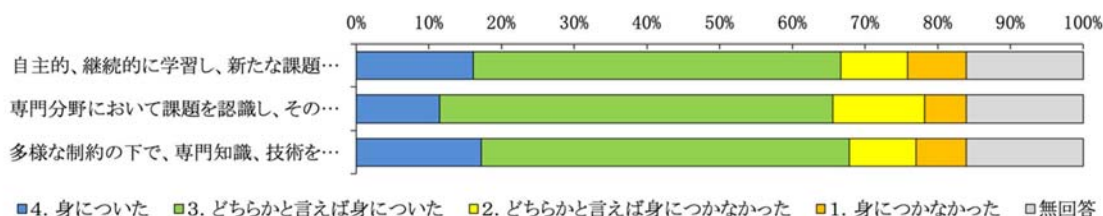


図4 倫理観・社会的責任：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか。

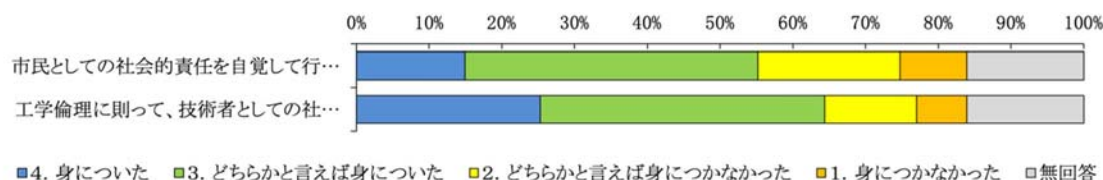
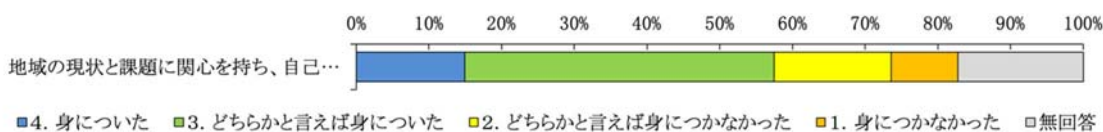


図5 地域理解：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか。



農学部

(1) 分析結果

①専門教育各科目における充実度（満足度）（問9-1~6）：図1参照

「充実していた」および「ある程度充実していた」と回答した卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」、「コース専門科目」、「コース実験またはフィールド実習」、「課題研究」において80%以上の高い値を示していた（「共通展開科目」では僅かに低く75%であった）。

②学習・生活支援における充実度（満足度）（問9-7~9）：図2参照

「充実していた」および「ある程度充実していた」と回答した卒業生の割合は、「農学部教員との交流」において約70%であり、「農学部における友人との交流」では約80%、一方、「農学部における学生相談窓口」では約50%と低い値を示した。

③専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度（問10左側）：図3参照

「役立っている」および「ある程度役立っている」と回答した卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」、「コース専門科目」、「課題研究」において60%以上であり、「コース実験またはフィールド実習」や「共通展開科目」では約50%であった。また、「研究室での活動」および「友人との交流」において、それぞれ73%および80%の高い値を示しており、「就職活動」では約60%であった。

④専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問10右側）：図4参照

「役立っている」および「ある程度役立っている」と回答した卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」において約70%であり、「コース専門科目」、「共通展開科目」、「コース実験またはフィールド実習」、「課題研究」においては50%台であった。また、「研究室での活動」および「就職活動」において約70%であり、「友人との交流」では約80%であった。

⑤総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問12）：図5参照

「満足している」および「ある程度満足している」と回答した卒業生の割合は、約90%の高い値を示した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部の専門教育各科目における充実度（満足度）においては、概ね全ての科目区分において値が高く、特に図1の「充実していた」と回答した卒業生の割合より、「課題研究」の取り組みが大きな影響を与えていることが分かった。また、専門教育および学生生活がこれまでの職業生活や社会生活全般への役立ち度に関しては、「研究室での活動」や「友人との交流」において得られた経験が大きな影響を与えていると考えられた。以上のことから、農学部教育においては、やはり研究室での課題研究活動が将来においても重要であることが考えられた。

【改善を要する点】

学習・生活支援において、「農学部における学生相談窓口」の充実度（満足度）が低く、改善を要すると考えられた。また、専門教育各科目において、「共通展開科目」の値が他の科目に比べ少し低いことが見受けられ、充実度および役立ち度の両面において改善を要すると考えられた。

【参考資料】

図1: 専門教育各科目における充実度 (満足度)

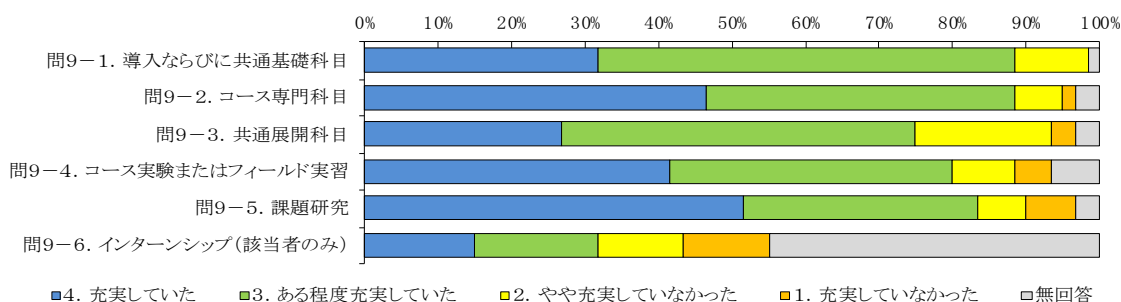


図2: 学習・生活支援における充実度 (満足度)

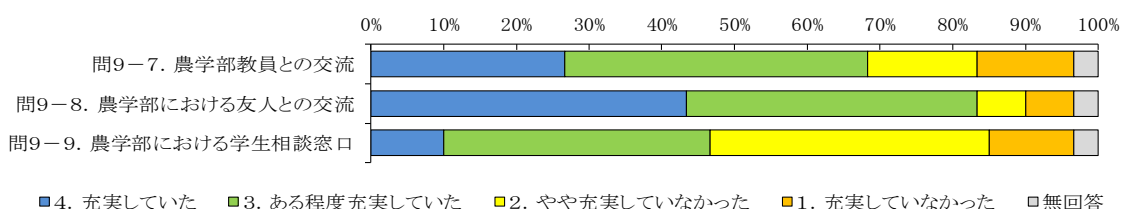
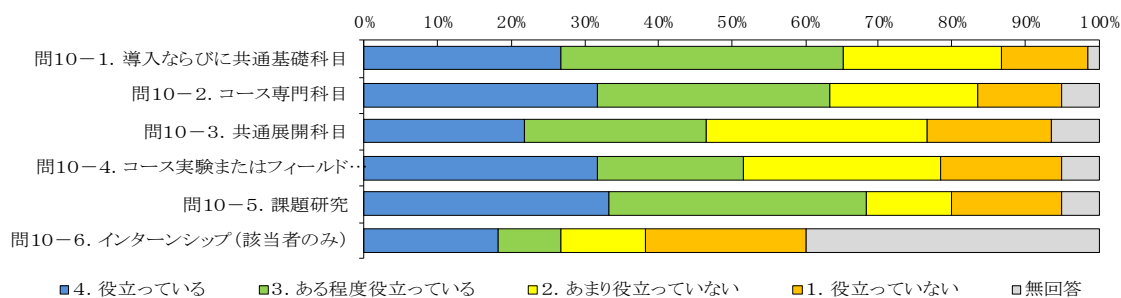


図3: 専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度 (問10左の結果)
(専門教育)



(学生生活)

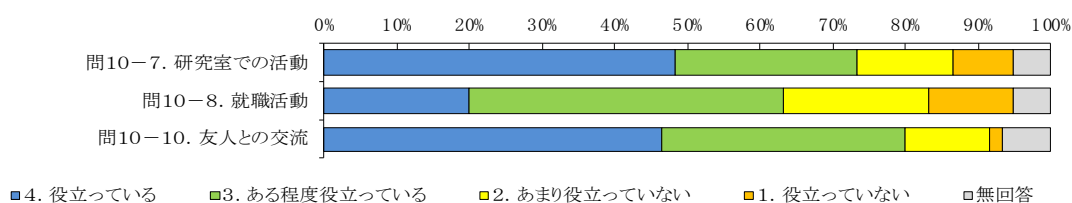
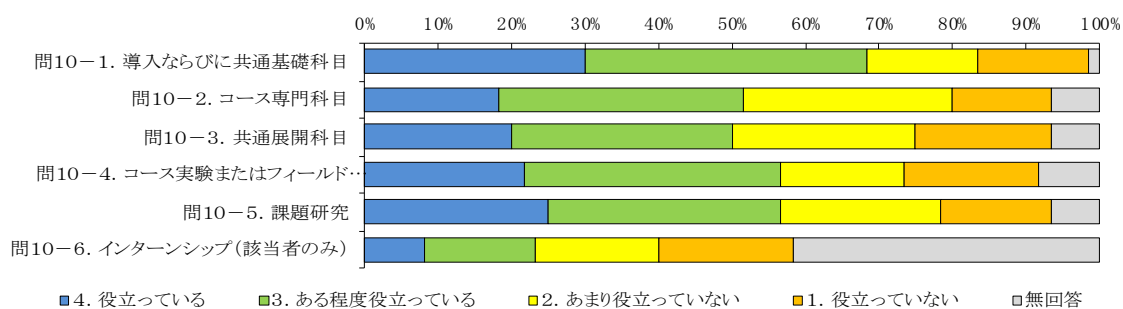


図4：専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問10右の結果）
（専門教育）



（学生生活）

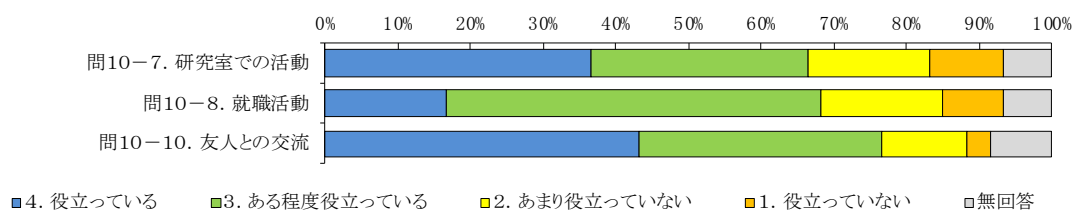
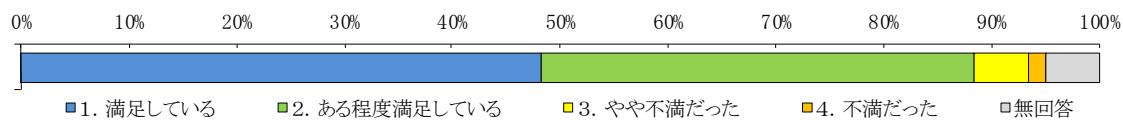


図5：総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問12の結果）



<修了生によるアンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

①職業・労働状況（問2、問4）・・・図1、図2参照

- ・勤務先の就業形態について、「正規雇用」が約94%となっており、高い値である。（図1）
- ・勤務先の業種について、多い順から「建設・機械関係」が30.9%、「保健・衛生・医療関係」が16.2%、「情報・通信関係」が13.2%、となっている。（図2）これは、全回答者のうち約80%が、工学研究科、医学系研究科のいずれかの出身者であることが関係していると推測される。

②転職、あるいは離職の経験（問5）・・・図3参照

- ・転職、あるいは離職の経験が「ない」と回答した者が6割強を占めている一方、「ある」と回答した者は2割強となっている。また、「数年内には転職、あるいは離職したい」者が少なからずいる。（図3）

③大学院教育を通じて身についた知識・能力（問6）・・・図4参照

- ・「倫理観や社会的責任」、「専門知識を応用して課題を解決する力」、「研究を計画・遂行する力」、「高度な専門知識」の知識・能力については、身についた者（「身についた」と「どちらかといえば身についた」の合計）が9割を大きく超えている。（図4）
- ・「国際的視野」の知識・能力については、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が4割強になっている。（図4）

④これまでの職業経験の中で役立った知識・能力（問6）・・・図5参照

- ・「倫理観や社会的責任」、「研究を計画・遂行する力」の知識・能力は、役立った者が9割を占めている。「研究を計画・遂行する力」は、大学院教育で特に習得できる知識・能力と考えられ、職業経験においても有用であることがうかがわれる。（図5）

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

①勤務先の就業形態について、ほとんどの回答者が「正規雇用」である。

- ・これは、「卒業生によるアンケート調査」の回答結果（令和3年度で正規雇用が89.8%）と比較しても高い値である。大学院修了者の就職状況が順調であると評価できる。

②大学院教育を通じて、多様かつ幅広い知識・能力が身についている。

- ・「高度な専門知識」を習得し、「研究を計画・遂行する力」、「専門知識を応用して課題を解決する力」、「倫理観や社会的責任」について伸長できていると考えられる。

【改善を要する点】

①「国際的視野」の知識・能力について、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が4割強存在している点である。

- ・近年、大学院生が国際学会等で積極的に研究発表を行う取組が進められている。引き続き、授業内外における国際的な教育研究の機会を全学的に充実させていくことが必要である。

【参考資料】

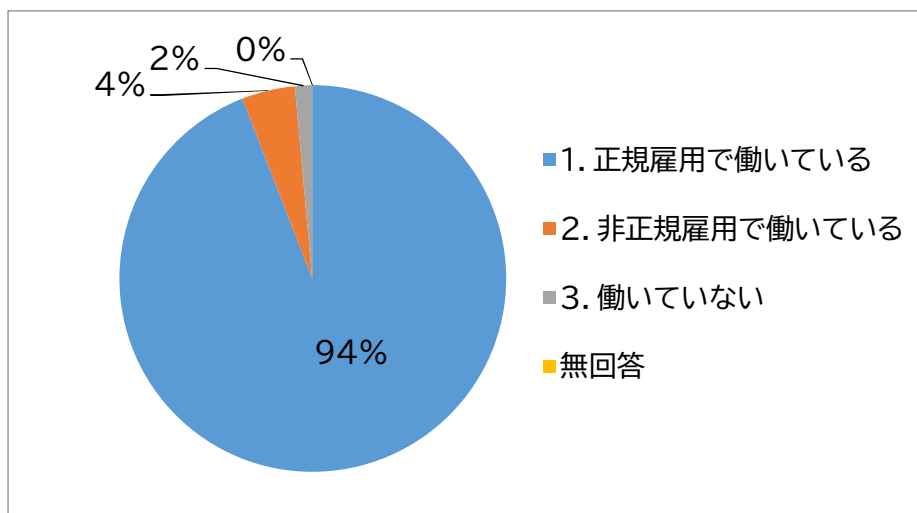


図 1. 現在の勤務先の就業形態 (N=68)

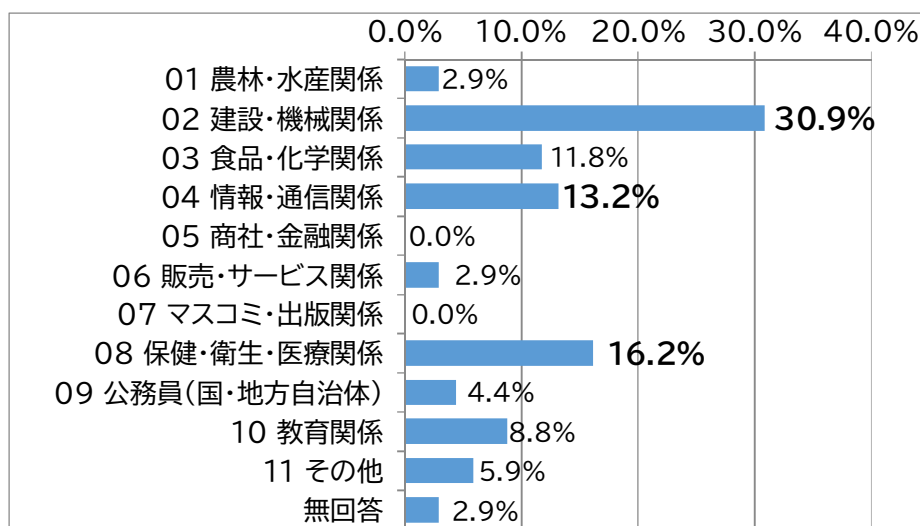


図 2. 現在の勤務先の業種 (N=68)

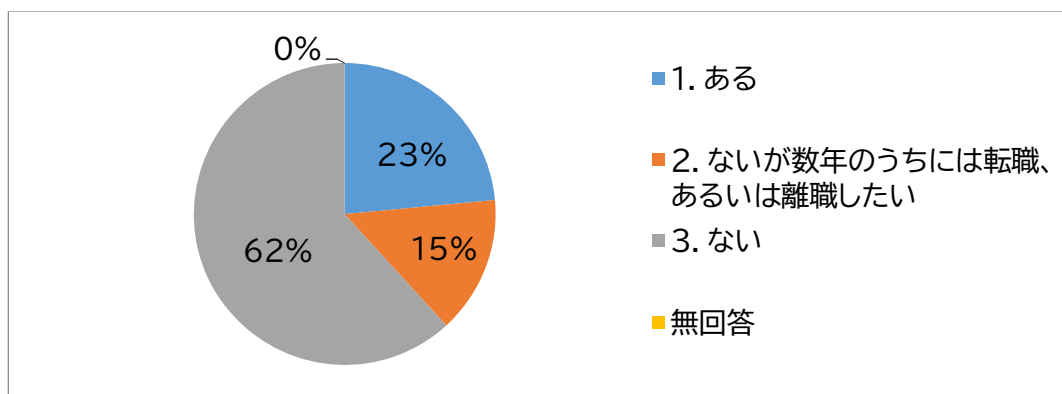


図 3. 転職、あるいは離職の経験 (N=68)

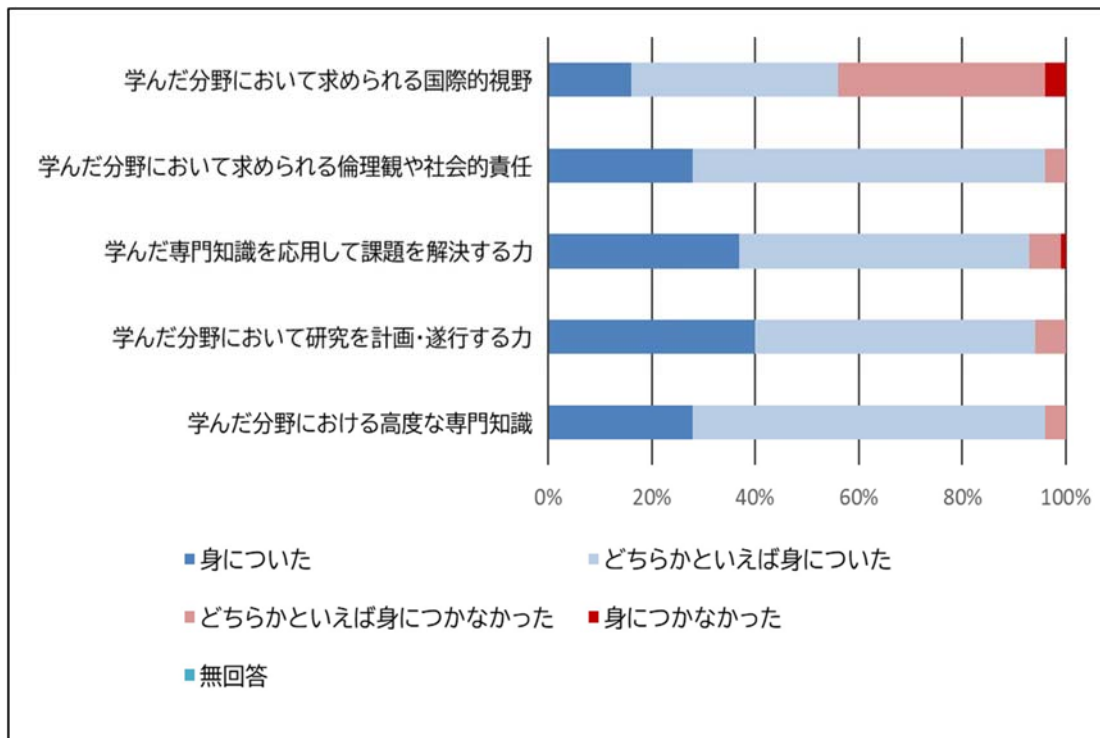


図 4. 大学院教育を通じて身についた知識・能力 (N=68)

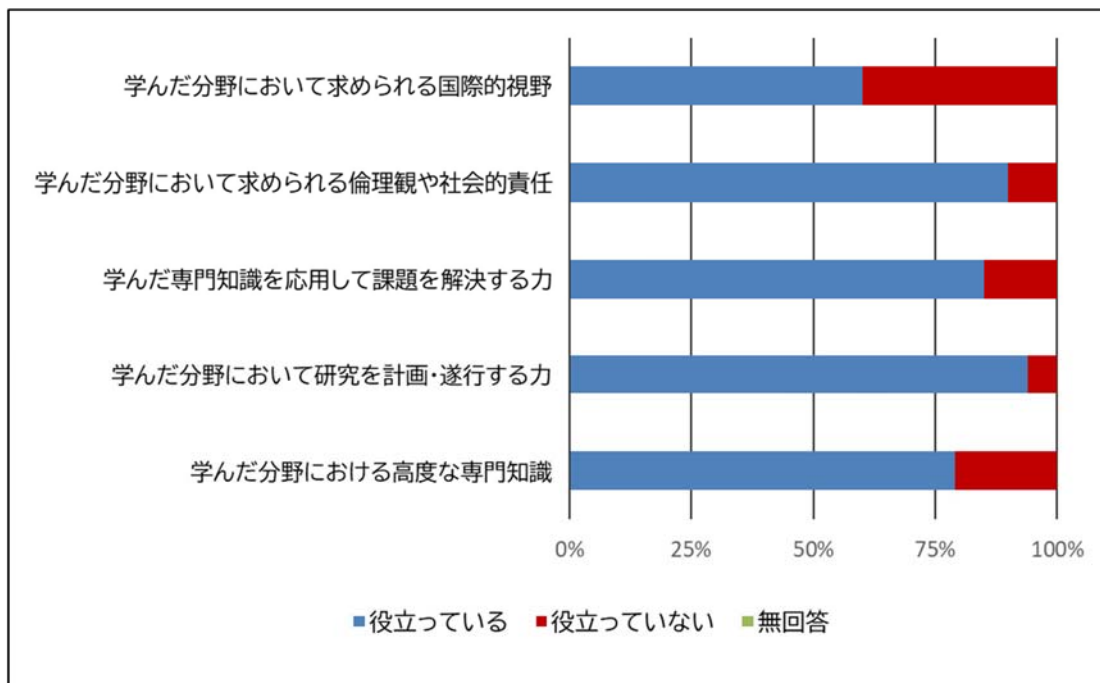


図 5. これまでの職業経験の中で役立った知識・能力 (N=68)

1. 研究科に関する分析

法学研究科

(1) 分析結果

法学研究科は1名から回答があった。「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」(質問 8)および「法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。」(質問 9)に「ややそう思う」と回答、「開講されていたら受講したかったという授業はありますか。」(質問 11)に「実務に関する授業・資格試験対策のための授業」と回答、「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」(質問 12)に「ある程度満足している」と回答した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」「法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。」および「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」の項目に対して、十分とはいえないが前向きな評価が得られた。このことから、大学院の教育・研究、大学院法学研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーについて有用であったと考えられる。

【改善を要する点】

「開講されていたら受講したかったという授業はありますか。」について回答があったうちの「実務に関する授業」は実務家である税理士と司法書士による授業がそれぞれ開講されているが、「資格試験対策のための授業」については開講されていないので、そうした授業を開講することを検討したい。ただし、法学研究科は既に募集を停止しているので、この課題は創発科学研究科に引き継ぎたい。

経済学研究科

(1) 分析結果

経済学研究科独自の項目（問 8_1-16）の選択回答の割合（平均値）について、「身についた」42%、「どちらかといえば身についた」33%、「どちらかといえば身につかなかった」11%、「身につかなかった」14%と回答している。「身についた」と「どちらかといえば身についた」を足すと75%という結果になっており概ね評価できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

経済学研究科の教育課程を通じて、経済や経営に関する高度な専門知識と研究能力を身につけていると考えられる。

特に「地域の活性化についての知識」、「定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」、「複眼的な思考力」、「コミュニケーション力」、「課題探求・解決力」において、全ての回答者が身についた（「身につけている」、「どちらかといえば身につけている」）と回答している。

【改善を要する点】

「統計についての知識」について、4人中3人が「身につかなかった」と回答しており、また、「定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」について、4人中3人が「身につかなかった」または「どちらかといえば身につかなかった」と回答している。

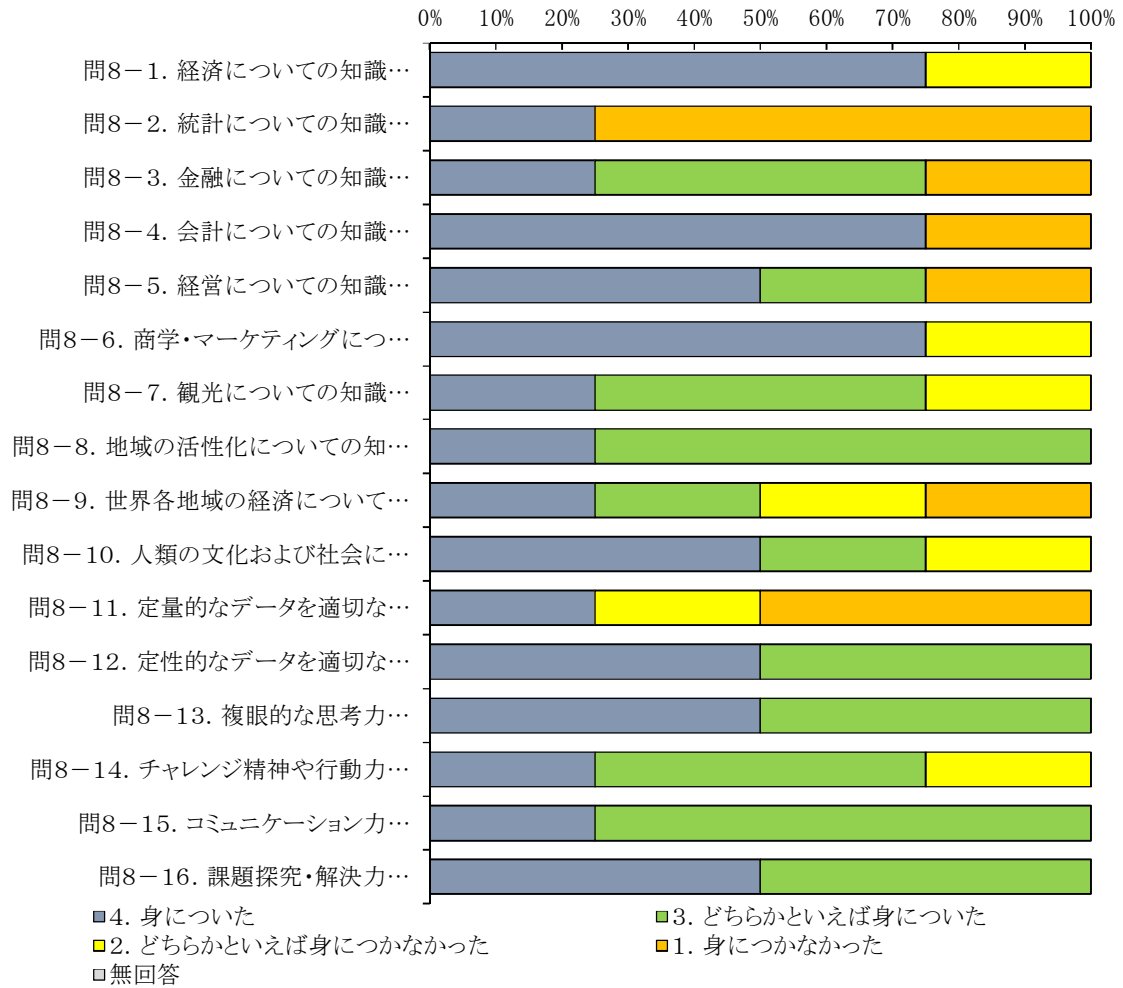
他の教育分野に比べると「統計学」に関する知識・能力が相対的に低い結果となり改善の余地がある。

【参考資料】

質問 8 : 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学研究科の教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

(回答結果)

	4. 身についた		3. どちらかといえば身についた		2. どちらかといえば身につかなかった		1. 身につかなかった		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問 8 - 1. 経済についての知識	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 2. 統計についての知識	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	0	0.0%
問 8 - 3. 金融についての知識	1	25.0%	2	50.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
問 8 - 4. 会計についての知識	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
問 8 - 5. 経営についての知識	2	50.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
問 8 - 6. 商学・マーケティングについての知識	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 7. 観光についての知識	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 8. 地域の活性化についての知識	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 9. 世界各地域の経済についての知識	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%
問 8 - 10. 人類の文化および社会についての幅広い知識	2	50.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 11. 定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	1	25.0%	0	0.0%	1	25.0%	2	50.0%	0	0.0%
問 8 - 12. 定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 13. 複眼的な思考力	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 14. チャレンジ精神や行動力	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 15. コミュニケーション力	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問 8 - 16. 課題探究・解決力	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



医学系研究科

(1) 分析結果

修士課程(看護学専攻)

修士課程(看護学専攻)は3名から回答があった。「全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。」(質問8)100%がそう思う(=大いにそう思うとややそう思うの合計)と回答、「大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。」(質問9)67%がそう思うと回答、「大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。」(質問10)67%がそう思うと回答、「大学院(修士課程)で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。」67%が大いにそう思うと回答した。

博士課程(機能構築医学専攻、社会環境病態医学専攻、分子情報制御医学専攻)

博士課程(機能構築医学専攻、社会環境病態医学専攻、分子情報制御医学専攻)からは12名から回答があった。「全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。」(質問8)83%がそう思う(=大いにそう思うとややそう思うの合計)と回答、「大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。」(質問9)59%がそう思うと回答、「大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。」(質問10)67%がそう思うと回答、「大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。」(質問11)75%がそう思うと回答した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

修士課程(看護学専攻)：「全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。」、「大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。」、「大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。」、「大学院(修士課程)で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。」といった項目に対して、十分な評価が得られた。このことから、大学院の教育・研究、大学院医学系研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーについて有用であったと考えられる。

博士課程：「全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。」、「大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。」、「大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。」といった項目に対して、十分な評価が得られた。このことから、大学院の教育・研究、大学院医学系研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーについて有用であったと考えられる。

【改善を要する点】

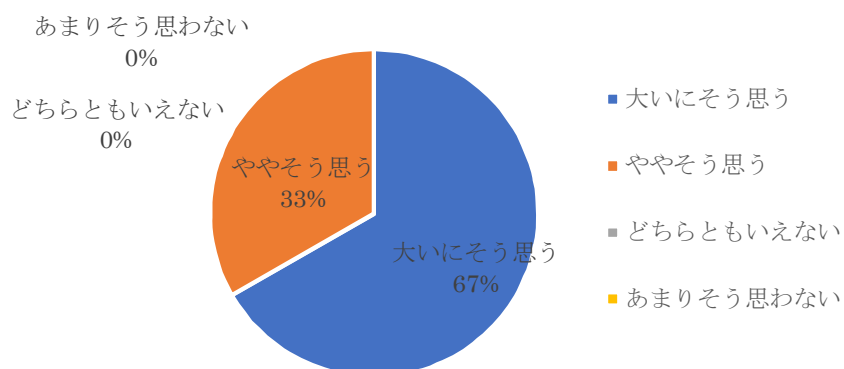
博士課程

「大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。」という点については、十分な評価が得られなかったため、改善が必要である。令和4年度は遠隔講義を取り入れ、特に社会人学生が遠方から講義を受講できるように配慮している。

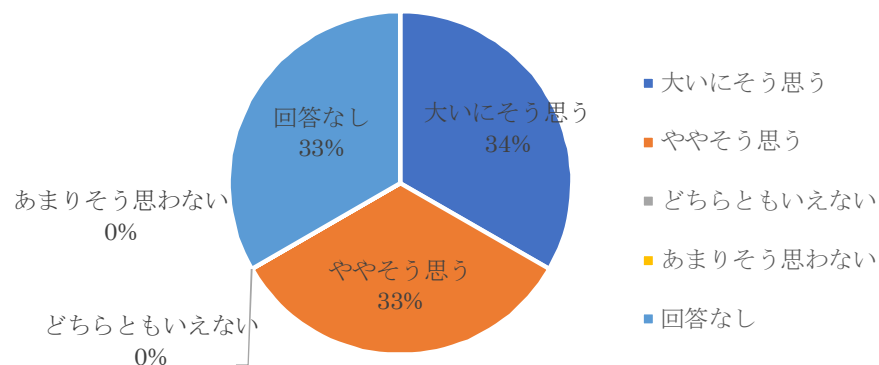
【参考資料】

修士課程(看護学専攻)

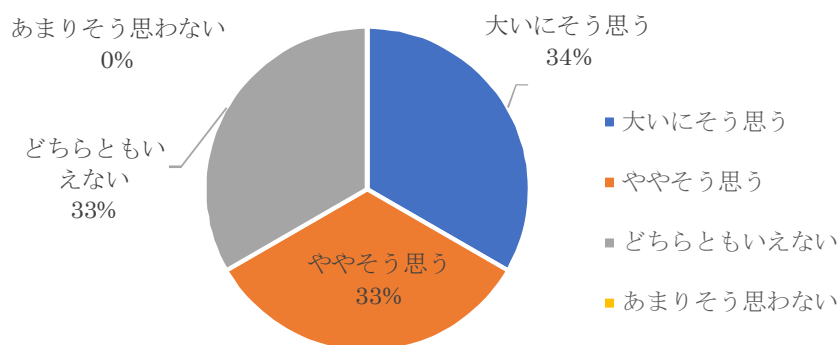
問8. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。



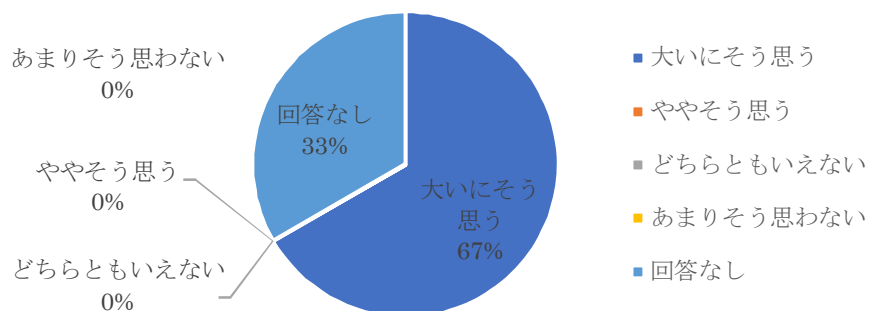
問9. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。



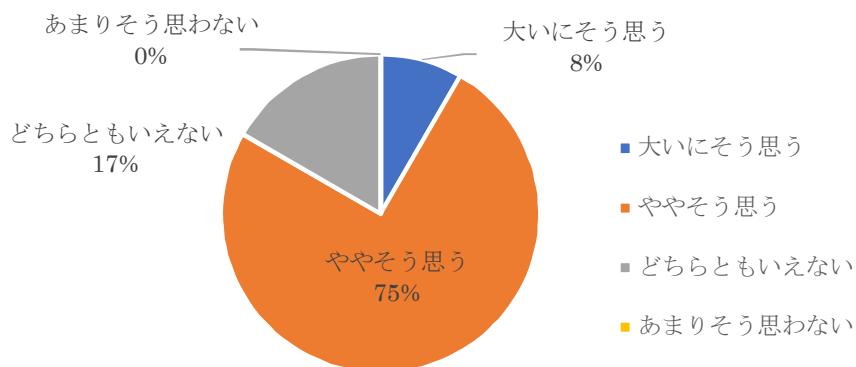
問10. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。



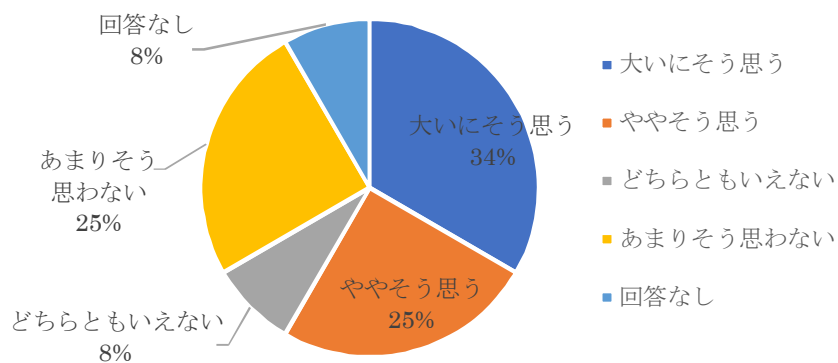
問12. 大学院（修士課程）で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。



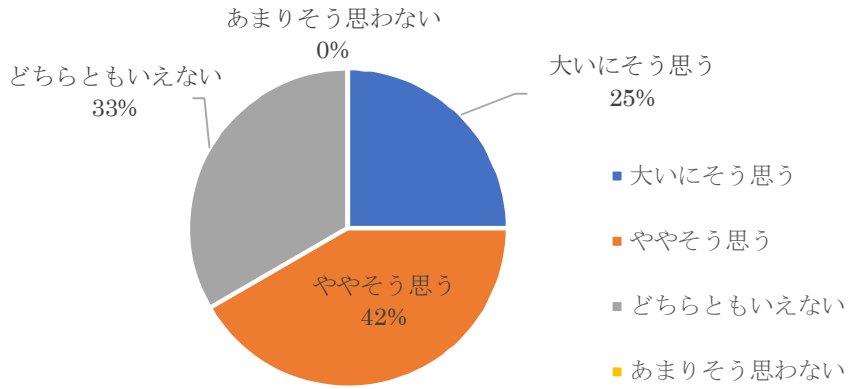
問8. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。



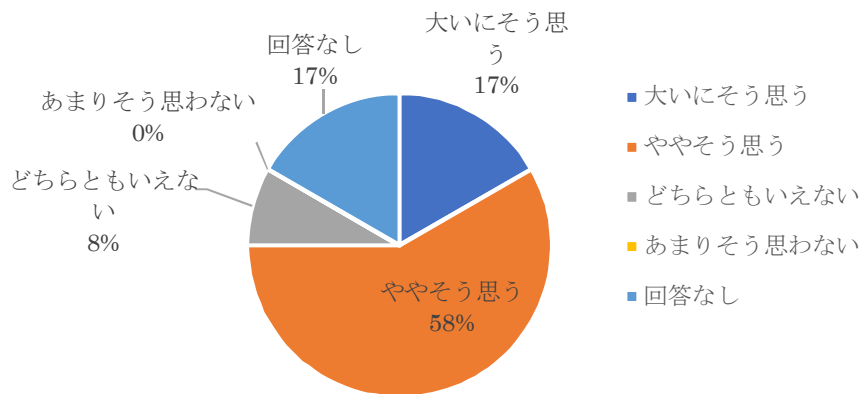
問9. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。



問10. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。



問11. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。



工学研究科

(1) 分析結果

工学研究科修士課程（平成 29 年度～平成 30 年度入学生）のアンケート回答人数は、博士前期課程 34 名、博士後期課程 5 名である。

「学んだ分野における高度な専門知識」が大学院教育を通じて身についた知識・能力としての肯定回答（「身についた」と「どちらかと言えば身についた」）は 92.3%であるのに対し、これまでの職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答（「役立っている」）は 82.1%である。

同様に、「学んだ分野において研究を計画・遂行する力」の肯定回答は 92.3%に対し、これまでの職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答は 89.7%である。

「学んだ専門知識を応用して課題を解決する力」の肯定回答は 89.8%であるのに対し、これまでの職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答は 82.1%である。

「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」の肯定回答は 94.9%であるのに対し、これまでの職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答は 89.7%である。

「学んだ分野において求められる国際的視野」の肯定回答は 46.1%であるのに対し、これまでの職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答は 51.3%である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

工学の重要知識・技能である「自然科学の理解を基盤として、それぞれの分野に関する知識・技術」、「課題探究能力と高度な問題解決能力、持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力論理的かつ客観的な文書を作成することができる力」、「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」は、工学研究科の専門教育を通じて十分獲得できていて、これまでの職業経験の中で役に立っていると認識されている。

【改善を要する点】

「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」は、工学研究科の専門教育を通じて十分獲得できているとは言えず、これまでの職業経験の中で役に立っていると認識も十分であるとは言えない。教育に改善が必要であると考えられる。

【参考資料】

工学研究科の専門教育を通じてどの程度身についたか。また、これまでの職業経験の中で役立っているか。

図1 専門知識・理解：自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術

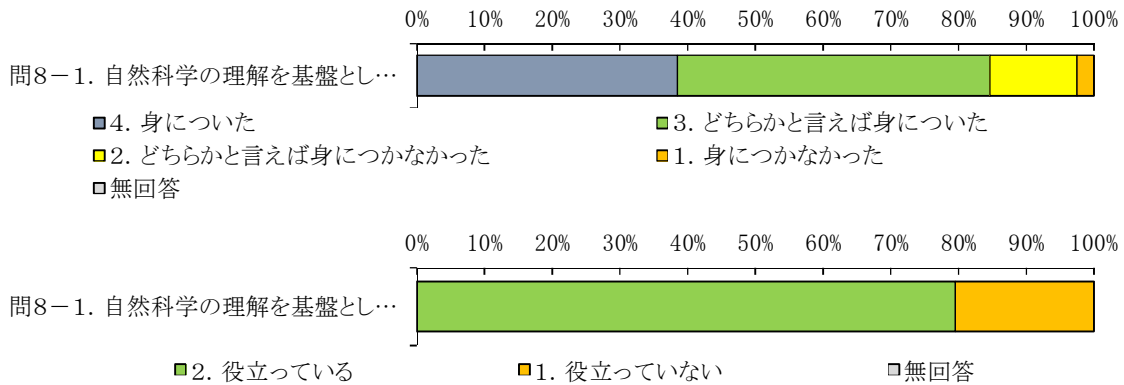


図2 研究能力・応用力：課題探究能力と高度な問題解決能力、持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力

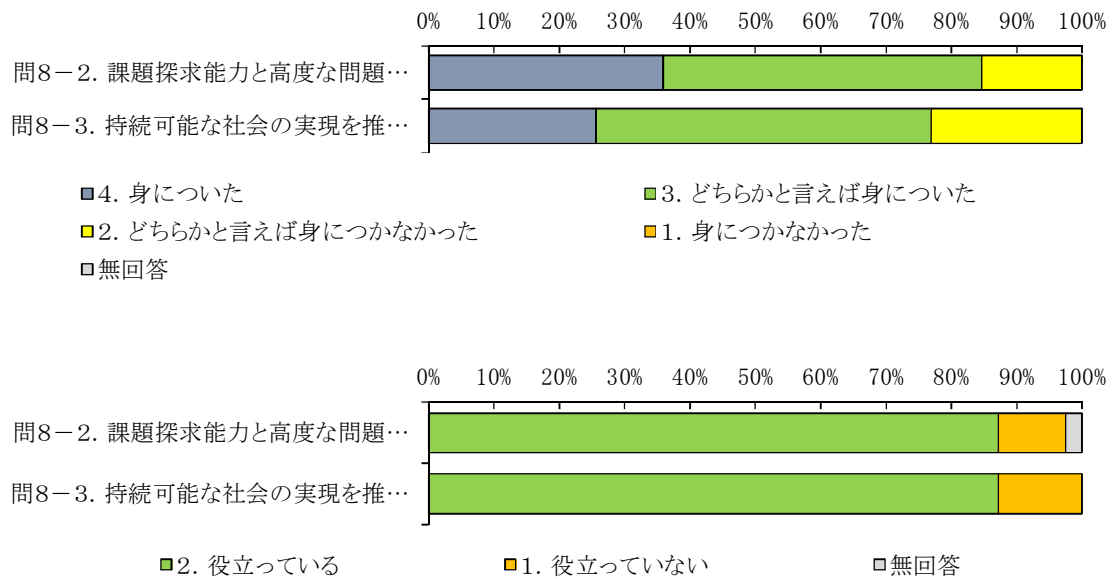


図3 倫理観・社会的責任：社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観

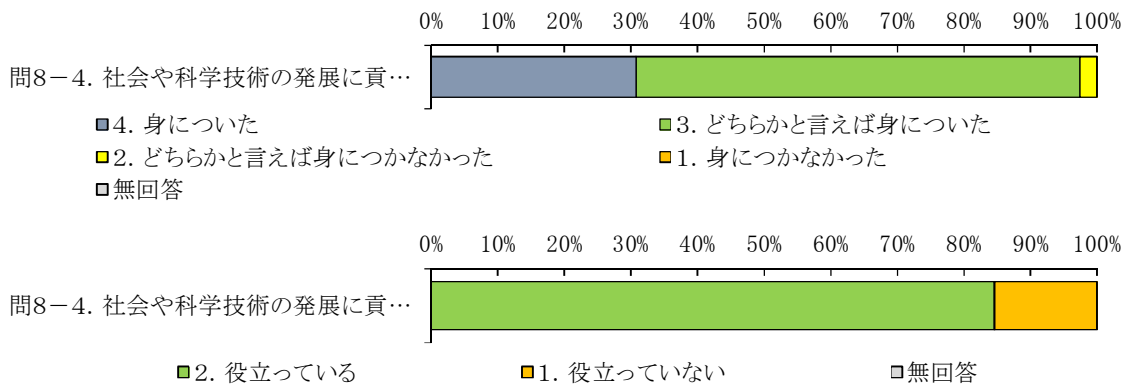
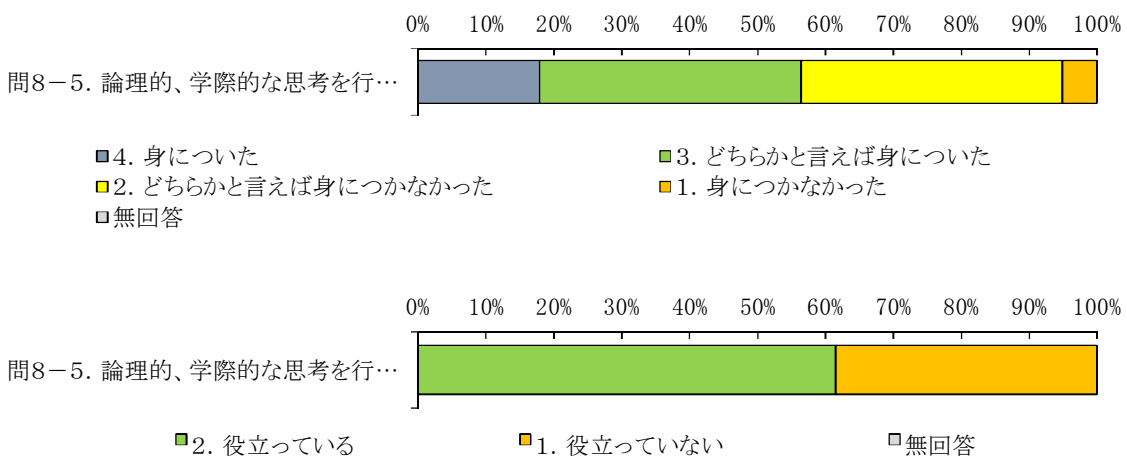


図4 グローバルマインド：論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力



農学研究科

(1) 分析結果

①農学研究科の教育・研究による能力の取得および向上（問8）・・・図1参照

「課題の全容を論理的に取りまとめる能力」が、取得および能力が向上したと回答（「大いに思う」と「思う」の合計）した者が全員であった。「得られた結果に基づいた解析能力」と「英語によるコミュニケーション能力」が、取得および能力が向上したと回答した者が約9割であった。また、「研究開発マインドの取得」、「自ら立案する課題設定能力」、「課題を解決するために必要な情報の収集能力」、「日本語によるコミュニケーション能力」が、取得および能力が向上したと回答した者が約7割強であった。

一方で、「グローバルマインドの取得」が、取得および能力が向上したと回答（「大いに思う」と「思う」の合計）した者が約3割程度であり、「英語によるプレゼンテーション能力」が、取得および能力が向上したと回答した者が約5割程度であった。

②農学研究科の専門教育の充実度（問9）・・・図2参照

「展開科目（応用生物科学先進科学セミナー，修士インターンシップ，国際修士インターンシップ，アドバンスド国際研究コミュニケーション，国際研究実践コミュニケーション）と研究科目（修士研究I～IV，修士論文）について、充実していたと回答（「充実していた」と「ある程度充実していた」の合計）した者が約7割強であった。

一方で、希少糖共通科目（希少糖イノベーション，希少糖植物科学特論，希少糖応用生命科学特論，希少糖食品科学特論）が、充実していたと回答（「充実していた」と「ある程度充実していた」の合計）した者は、2割程度であった。

研究科目（国際研究A・B）と研究科目（実践研究）は、それぞれ留学した学生や社会人学生のための科目であるため、履修していない学生が多いと考えられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学研究科の教育・研究による能力の取得および向上（問8）においては、概ね全ての設問において高い値を示し、特に、「課題の全容を論理的に取りまとめる能力」が取得および向上したと全員が回答した。また、農学研究科の専門教育の充実度（問9）においては、展開科目と研究科目が高い値を示した。農学研究科においては、研究室での修士研究を通して、論理的思考力、課題解決能力、プレゼンテーション能力などの能力が向上し、就職してからもそれらが役に立っていると考えられる。

【改善を要する点】

「グローバルマインドの取得」が、取得および能力が向上したと回答した者が約3割程度であった。また、希少糖共通科目が、充実していたと回答した者は、2割程度であったことから、自分の専門分野だけでなく幅広い広い知識を得ようとする学生が少ないことが予想され、改善を要する。

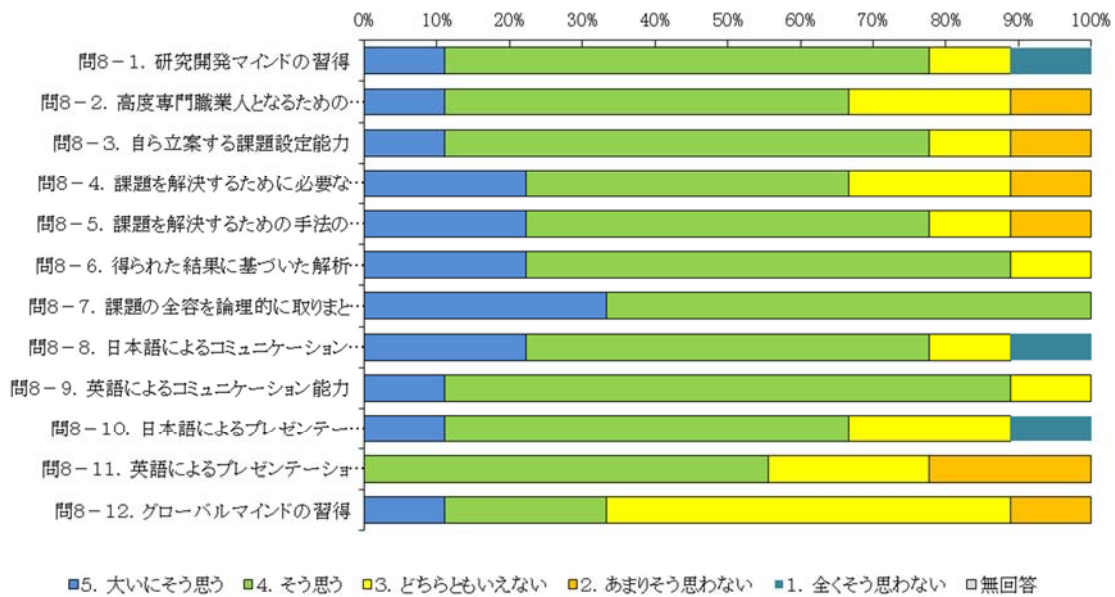


図1. 農学研究科の教育・研究による能力の取得および向上

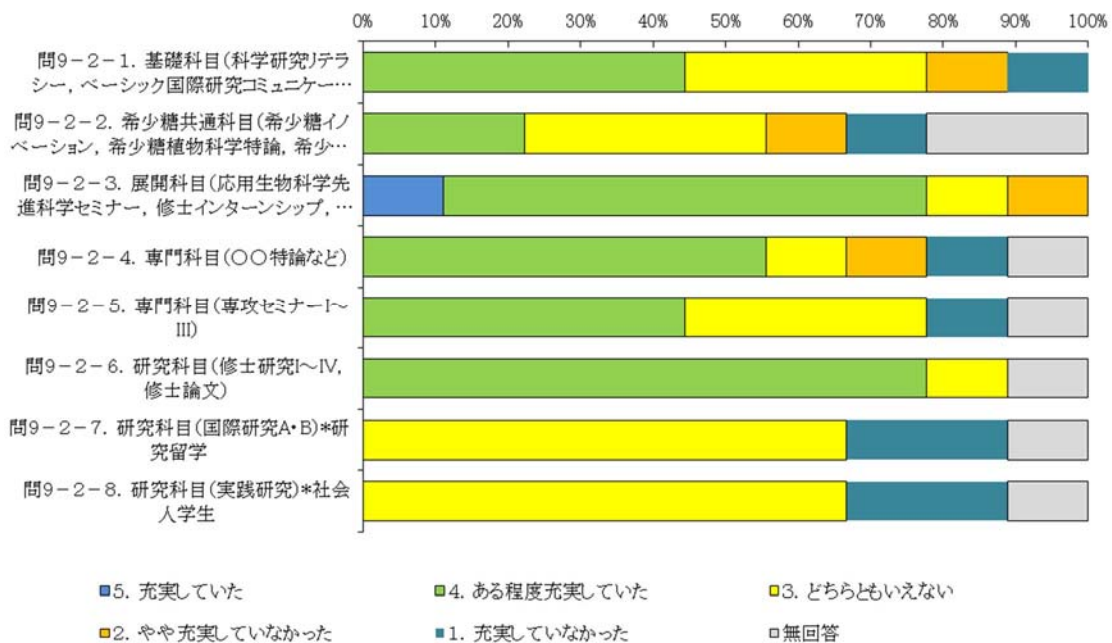


図2. 農学研究科の専門教育の充実度

<企業等アンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

①企業等の卒業生に対する満足度・・・表1参照

「満足」と「ある程度満足」の数値を合わせると平成28年度以降継続的に90%以上であり、「満足」の値が継続的に増加している。

②職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価・・・図1、2参照

令和3年度で90%以上：自己教育の態度(図1①と②)、日本語の言語運用能力(図2③と④)、知識・理解(図1⑫～⑭)、倫理観・社会的責任(図2⑳と㉑)、地域理解・国際理解(図2㉒～㉔)

令和3年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力(図1⑤～⑧・50%前後(職務遂行上で必要とされない能力だと回答した企業は約60%))

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

まず、企業等の卒業生に対する満足度は、継続的に高い。次に、自己教育の態度、日本語の言語運用能力、知識・理解、倫理観・社会的責任、地域理解・国際理解に関する能力に対する企業等からの評価も高い傾向にある。本学のディプロマポリシーを構成する5つの要素(言語運用能力、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、地域理解)のうち4つに対して企業等から高い評価を得られていることがわかる。また、ディプロマポリシーの構成要素の1つである問題解決・課題探求能力についてもほぼ90%の評価を得られている。なお、今回の調査からリスクマネジメント能力(図2⑱と⑲)に関する質問項目が追加されており、その値は80%以上だった。

【改善を要する点】

外国語の言語運用能力に対する評価は、相対的に低い傾向が続いているが、この結果の解釈には一定の留意が必要である。なぜなら、前回の調査と同様に当該能力を必要としない企業は約60%であり、この結果は、残りの約40%の企業の要求を満たしていないことを表しているにすぎないからである。他方、コロナ禍で人の移動が困難になっているとはいえ、グローバル化した現代社会において、外国語の言語運用能力を軽視してもよいというわけでもないだろう。コロナ禍において、本学では例えば、「オンラインを利用した留学やそれに代替する授業の受講や海外との交流を様々に展開」(本学インターナショナルオフィスのホームページより引用)している。コロナ禍で外国語の言語運用能力を習得するには、このような新たな方法や制度も活用していく必要があるだろう。

【参考資料】

	令和3年度	31（令和元）年度	30年度	28年度
満足	66.9%	61.9%	57.1%	49.1%
ある程度満足	30.5%	34.2%	36.0%	43.8%
やや不満	1.6%	2.3%	5.0%	4.0%
不満	1.0%	1.3%	1.9%	0.0%

表 1. 企業等の卒業生に対する満足度

注 1：28年度は上記に加えて、「記入なし」が 3.1%であった。

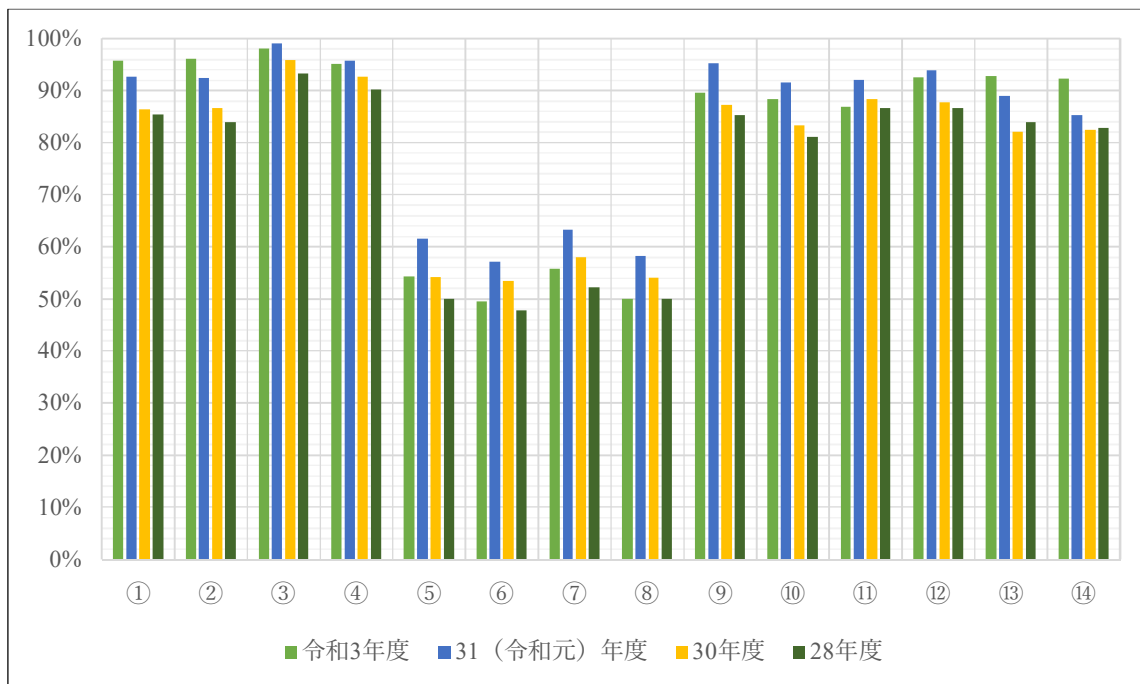


図 1. 職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価 (①～⑭)

注 1：図 1 の各番号は次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注 2：図 1 の値は、企業等からの評価の「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値である。ただし、それぞれの能力に対して「必要とされない」と回答した企業を除いている。ちなみに、⑤～⑧は「必要とされない」と回答した企業等が約 60%であったが、他の能力に対しては大半が数パーセントであった。

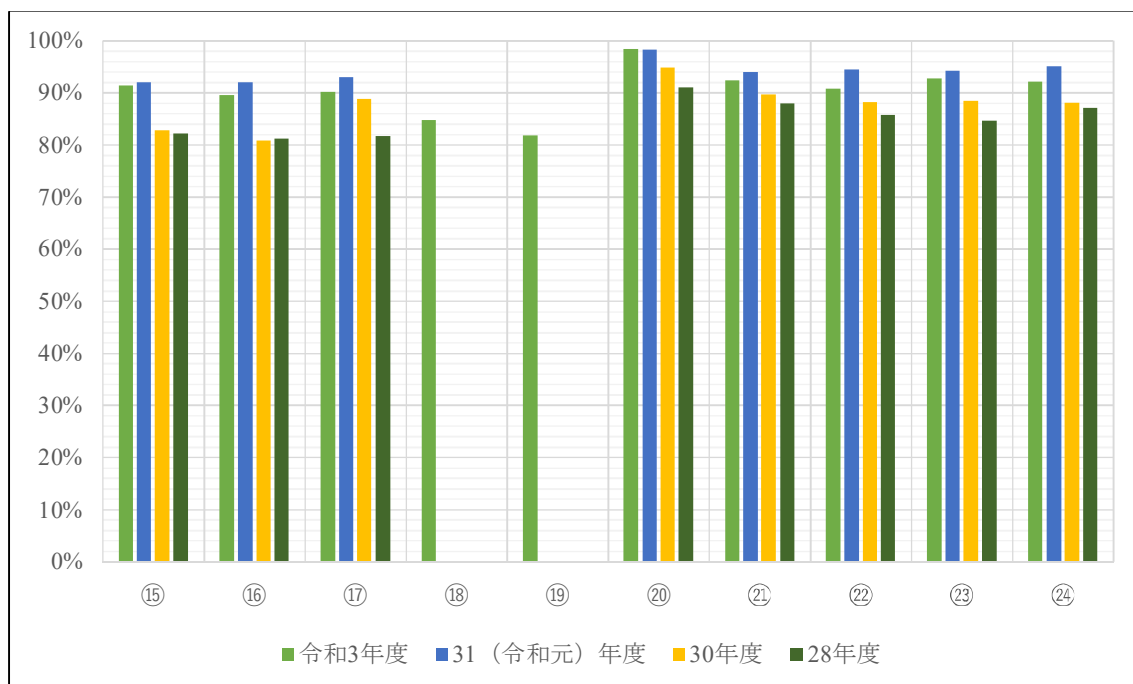


図 2. 職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価（⑮～㉔）

注 1：図 2 の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和 3 年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注 2：図 2 の値は、企業等からの評価の「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値である。ただし、それぞれの能力に対して「必要とされない」と回答した企業を除いている。ちなみに、「必要とされない」という回答した企業等の割合は、大半が数パーセントであった。